

掌

奇怪な微笑、

篇

林田盛雄

その頃、彼は、移民地特有の青年にあり勝
な放浪癖を、漸く、野菜市場の賣子に奉~~け~~し
て、五身、季節を追つて出奔する日本人百姓
の、貧と血と勞働との結晶である、超~~へ~~トマ
トの膚を極~~く~~に灼~~く~~たり、馬の喰~~え~~やうな青~~い~~
セロリを運~~ひ~~續けて、偉~~は~~れ人根性で、夜~~の~~
夕朝の勞働に、淫~~ろ~~かな生活をやき指~~さ~~つてゐ
た。

金は無し、女はあり、青春を盡~~し~~て
弱肉強~~し~~に蝕~~は~~れた肉~~を~~、轉換~~さ~~せよと
却~~か~~る如~~く~~の當~~た~~り事は、さうさう、恐~~ろ~~い
未~~だ~~きた資本主義社會の矛盾の端~~は~~は兎~~も~~見~~え~~
るものではなかつた。

所詮、盡~~し~~す~~る~~人同~~じ~~物~~な~~一匹~~の~~一~~匹~~か
節~~は~~なかつた。

でも、男二十八、未~~だ~~、心~~の~~芯~~を~~で~~こ~~つて

は
み
あ
う
ん
た
ー
と
能
は
力
り
か
う
う
し
み
た
。

彼
反
瘦
也
我
増
を
押
一
通
一
二
働
主
師
女
大
小

金
飛
、
あ
ー
に
を
一
巻
婦
調
ー
た
。

市市市
白
馬車
買
了
九
一
二

近婦住心
親
夫人
訪
夫

人は、豊かに暮らすために、

三九二、
二、
世
疑
釣
方
く
ち
や
・
壺
上
。

さ
う
、
大
一
た
工
サ
ひ
も
た
い
。
サ
ー
。

土
う
言
フ
て
、
軽
く
懸
（懸）
し
た
結
は
、
流
石
に
！

合
 呈
 鞋
 皆
 之
 丸
 乙
 銭
 か
 才
 じ
 一
 才
 才
 へ
 じ
 急
 じ
 西
 升

4

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

川夫人
付
御
世
延
接
司
に

楷
瘦
一
主
・
レ
ま
女
う
よ
し

[illegible]

分はたまに事々た。

夕
 の
 古
 乙
 夜
 層
 服
 外
 未
 右
 置
 下
 方
 し
 下

五
 子
 人
 乙
 子
 〇

今、
房、
之
は、
何處に
棲人
て、
ます
と、
一

↑
心
、
物
無
用
。

と
夫
人
は
本
言
々
残
一
二
、
二
つ
、
三
つ
、
四
つ
、
五
つ
、
六
つ
、
七
つ
、
八
つ
、
九
つ
、
十
つ

聞もなく、夫人は、洗濯屋の西達をたう
、いしるを三日板、下りて降りて来た。

房には、田舎の奥に預き来て、始めて解

會ひ出す大學生と、川崎の元へ領けら

れてゐた。それが、一丁半後の四月の前、夫

人と、生活感地、深々出来て、宿を拒はる

た。た。角

房にの帯女中、彼は、極く細い、女情を保

つ、彼女に面接、併し、彼は書身、飲

女は、この判失、自然の意志は、坦々た

了大道を、浮の會同、尊く、途を創るも、た。

深い恋心、面か、情盛然、西人の目、光

し始めやうとする垣、細女の姿は、川夫人の

を、う、留る、夫、て、つた。

ふん、オリ、かり、七、由、良、の、助、

先手、喰、た、若、う、悲、哀、じ、彼、う、情、熱、は、妙、

乙、ち、あ、て、こ、人、な、な、悔、う、に、似、た、留、息、が、う、こ

り、て、は、浅、木、て、いた。

そ、本、が、今、日、川、夫、人、の、持、病、は、彼、た、う、も

の
彼女に
遭^あ
へ
る
確
実性
を
抑
へ
て、
あ
ま
り
と、

白身の骨の毛を
剃つ程の
二升た
に
盛
飯
た

三
 木
 カ
 夕
 ヤ
 キ
 ハ
 ,
 此
 自
 身
 の
 腹
 よ
 ー
 ー

ト
レ
ス
を
抱
こ
こ
、
玄
冥
を
降
り
こ
ぬ
の
北
月
や
に、

ママは力の~~つけ~~つけ方
を教
け
た
。

やうやく
捜し当てた彼女の名前を

停めると、川夫人の電話で話つてゐる佐伯女は

、
年
子
生
2
~~年~~
おに
1
い
9
横
ん
や
う
2
来
た
6

随分
ク
ー
ふ
リ
お
こ
し

女
 部
 大
 ソ
 開
 見
 く
 太
 瞳
 は
 行
 て
 一
 極
 援
 う
 々

に
ト
ル
太
七
症
し
た
o

彼女
三本
を
宛
中
軍人
が
心
彼

は
い
御
女
を
車
に
乗
せ
て
た
り

か
て
て
て
か
い

2
2

新
女
は
報
女
に
頼
ま
れ
た
ら
ば
、

1
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 5

と
、
ア
イ
エ
ウ
フ
話
尾
を
~~キ~~
キ
シ
ソ
タ
ト

結
 も
 、
 結
 女
 も
 、
 直
 ぐ
 跌
 り
 膝
 ち
 ひ
 、
 許
 合
 、
 落
 落

いかに

穂^ホを、キコナリ、胸の辺で吸き本^{ほん}はた

でも、お木から、ちつと毛髪を見せながら

たのお

お母さんから、手紙戴ったのよ。たまには

読あうやうに。川夫人のお友を。

いしやう。矢つ玩お母さん。

おエ、今にね、靴のぬきも脱いた。

別々^{べつべつ}の時、とうたつたにしろ、自分の可笑

い娘が一氣も返介になつて、一度も後悔しな

つ、友人と、人聴きあつたよ。

だ、こー

今古やく、島渡。うにしろ。

彼女が黙つて、彼の素情^{そじやう}も眺めゝゐたので、

彼の自動車は動きました。

夕飯を、何處かで、一緒に喰やう。

二時回航^{くわん}ありぬつて、彼女の文近くは話あ

たさうな

でもー、彼女は躊躇^{ちゆうちゆう}した。

でもー、オーうい。

ーはたくし、行けま。

正確な三十五で、細く喰った。

彼は口を噤じた。

彼女は、二階の白室を、重々急がず覗き上

りながら、
（彼女が、
二階の白室を、
重々急がず覗き上
りながら、）

はさくし、日本活の箱をすくひす。

「左へ」彼は彼女を連れ、
（彼女が、
二階の白室を、
重々急がず覗き上
りながら、）

日本活。——ひきこ。

でも、皆た、人達へ、話して、
（彼女が、
二階の白室を、
重々急がず覗き上
りながら、）

有る人ひきこ。

たつたう、僕、眠きに中、

より、下手大。きつ。

彼は、彼女を左薙ぎ、さう囁いた。

「暗闇に、無気な表情で窓の外へ、

奇も、黄鼠、
（彼女が、
二階の白室を、
重々急がず覗き上
りながら、）

彼女が、泣き出す日、午後、彼は花見に出掛

けた。

胸飾にする受に、二個の花束を注ぎした。

白く加へ、二ヤ、
（彼女が、
二階の白室を、
重々急がず覗き上
りながら、）

暗い時、
（彼女が、
二階の白室を、
重々急がず覗き上
りながら、）

新牛に彼は、

暗い時、
（彼女が、
二階の白室を、
重々急がず覗き上
りながら、）

「鳥江さんか、始めこの日本語演生の成り
を御します。次の文句を二件として書き添え
た。
「船は、かき二ヤの花が大変好きです。
晝夜か、この白く花を胸に挿して演壇に立
つ姿を觀てく思います。」
「でも、あなたか、船のこの支持をあんな
ひいたる。香りも艶もなつ小菊を胸に挿し
ておられたい。」

その夜、彼は、會場の後の方に、焦燥す
感持を挿し曲けて、心を飄々として
誰かか、月期するや、あゝ超自然的な運命の歸
靜を感ずる。サイコロ、目も待たず、心藏
を胸に挿し、激情曲に乗せられた。そして、
は、幾くかの生きた降壇して、司会者も彼女
の姿を紹介した。

「この通り、サイコロ、見事、僕、運勢を定
切らずに、僕は日本に歸る。一年経たな

何も、紅は、御覧の如く、お世に華に見え、この方こそ、演壇の女王様、林田盛雄創作用紙

演壇に進む。彼女、後方に、彼の瞳は焼

つた。肉勝の上に組む合した。雨拳の汗がく

り、^{固く纏着}着てゐる。

演壇、掌より前で、彼女は、くまうつと、

身を翻して、艶集に向き直つた。^{走つた。}

アッ、叫喚か。脳髓をやき裂いた。

彼女は、可憐に頭部を垂れて、聴集に授けを

した。

彼女が、端^{整に上}に半身を卓上に懸はしめる

る。足に、何、花が飾つてある。たか。

^{胸を飾る花は、花の心をなれ}

彼は、突然、聲を喰つた。若に似た。列

の衝動を、靴尖で踏む。慄慄した。

聴て、彼女の始めにしては落つた。聴

聴、平和な^{常態}の^{その常態}トから、静に聴く。流れた

導、日本語が、一語、語、流れた。

人、彼の錯乱した聴覚は、カーッと喰さ

つの音響にたつて、鼓膜を打ちつけた。

彼は、雨降の掌に顔を白くした。

熱の上昇する瞳を閉じた。

彼が、少身、喰、死別した生母が、白く加

ニヤの花を胸に挿して、道端に客道を現はし
た、
さきとす、
この一瞬目の細相が、
心の中の花を
愛を分かち愛さした。

彼
 久
 仰
 下
 大
 壇
 上
 の
 彼
 女
 は
 母
 子
 は
 友
 人
 へ

芳
陽
迄
の
年
令
の
外
に
着
目
の
物
に
何
の
花
も
飾
つ

二
は
五
た
か
う
た
。

彼、血を吐き、瞳を失ひ、彼女に縋り付けた。

征女
ヲ
視絲
ヲ
轉
向
如
・
征
ヲ
ヲ
ヲ
人
太
時
12
停
ヲ

た
、
~~た~~
那
に
、
彼
女
は
幽
か
た
頼
笑
を
湛
、
た

彼
又
事
是
、
腹
立
方
筋
入
12
取
鴨
毛
子
人
方
く

た、
人、
三、
実
隣席、
審員
子、
乙、
友

心
不
知
外
う
左。
実
際、
彼
が
愈
心
も、
意
志
も
力
も、

く
つ
た
り
と
お
り
に
た
し
ま
つ
る
た
の
た
る

3
 2
 又
 高面
 日友
 表情
 心
 教正
 翻然
 たり
 日
 本

話を擧つて
あり
海濱上
、
舟に
は、
時
運たきに
、
懸

集の
五
二
方
12
廻
録
を
注
出
外
に
出
入
徴
美
林

も
は
は
し
た
か
た
の
り
。

紅心對心
廖正叔還書

生々堂
 楊子雲
 の井は
 も取ら
 いに
 行の
 福や
 は九
 三、
 十一
 三十
 日

赤いストロベリー
 人々やセリと云ふ
 行の下の生
 手前には

短
海半爰女

其田盛地
五三一 一一三

短
海半爰女
五三一 一一三

海半爰女
五三一 一一三

林
田
~~盛~~
雄

四と水の接觸する弱律の端で、気毫と氣所

を往き來する分の間の定音をカ、トキ、シ、トヤ、シ、レ

交錯する小太鼓の叫びあつた。

乙
木
カ
ク
、
~~カ~~
効
珉
、
一

る
四
々
時
を
隔
り
開
く
た。

夕鏡の光

の	分
女	に
子	と
香	和
針	は
男	
女	
の	そ
き	木
こ	ふ
う	世
な	に
さ	女
ひ	
速	女
婚	の
9	親
億	し
に	4

今にハ
 夕映ヲ
 やうに
 頬を
 紅めた
 その
 刺

邦邦^とも、
 いろ
 いろ
 高打
 の
 庭を
 う
 九
 咲
 散
 分、

ニ
 暗
 か
 々
 本
 び
 中
 一
 轉
 左
 の

や
か
一
ま
一
し
フ
。

當
一
十
和
は
多
以
9

苦笑也

同

擋
 力
 3
 ,
 立
 5
 上
 7
 左
 0

多
に
は

て
や

を
甜
木
二

和
9
瞳
に

着
と

す
し
め
乙

、

雨
鏡
を
鏡
仰
乙
、

唇
を
正
ま
乙

斗
也

 t_2

和
12

城隍

字也 增 12 横 目 走 隼 7 乙 生 去 一

寸
稅
中
一
、
尺
五
七
八
九

緩
歩
調

70

一	フ	12	刻	4	フ
---	---	----	---	---	---

け
下
・
身
に
は
・
登
り
詰
め
・
増
・
意
接
完
に
白
)

輕い皮の板を
送る。

鯨

か
ら
降
り
こ
来
た
い
け
に
言
打
け

は
小
女
の
富美子
を
前
に
見
据
へ
て、
死
産
を
期
す

7
t₂
0

大きな戸をすゝる人
ぢやない。
坊やさん。
おえ

お
1
た
"
2
1
や
3
0

いふと、高おと、夫人と和とは、静室、亭
を置くた。

題、あつて、房に、叩くたい、うい、たい、

同様に、流るゝ事だ。それ、交つて、房にの

難、神、神経病、やうに、席を、い、め、

新、建、は、回、く、で、遊、お、も、う、一、。それ、を、失、念、一、

た、陣、急、症、患、者、の、や、う、に、。三人、は、和、や、か、た、感、應、

取、つ、た、う、う、と、し、た、。

又、り、や、一、種、の、病、氣、あ、つ、。

と、夫、人、が、。眼、を、天、井、に、送、つ、て、。細、つ、一、字、の、眉、

を、数、り、上、げ、た、。

い、う、ち、。い、う、ち、。い、う、ち、。い、う、ち、。

い、う、ち、。い、う、ち、。い、う、ち、。い、う、ち、。

房、に、の、新、変、持、許、の、赤、番、が、。三、人、の、頭、を、

付、け、る、~~や~~や、う、に、。續、け、お、ま、に、。や、が、を、演、奏、し、始、

め、た、。

一、三、一、十、三、。

もろ・言はなり・かろ
と・喰・る・て・

其の／＼

其 田成子

四枚

(五三三三三)

移るは處

秋の一齣

「黒猫・トマト・ヤ・ホ・馬鹿なれ・バツ
カイ。」

「それか、五ヶ軒隣りの、七フにな。小女
半圓の寄附呉行、通藝今のテヤツを三枚、
に賣り、そゝおた判那の悪態だ。」

「何に、この小娘。」
「おは、適り、さうとした小女、役題を陳親
へ

「、水管の前に思き掘った。」

「もう一度、そつてひく。」
「怖いさう。オヤさん。」

「小女は、オカリバの汚れた顔を揚げて、
桶に釘付けにされたやうに肩を縮めて、
うた。」

「お、あたまたかう水をかおてや。」
「ババに言あか。」

「お、おは、微笑だ。」

「もう言ふやうと、あやまり。」

救目の節から覗くと、実の老母は一言
つても、四十五分に貝と主婦は、三矢の仔
猫を一匹、片腕で抱き、一声の高叫にうしろし上け
てゐる。

「可愛い、おや、おや、どうしやうも無いで、
産は四匹も生れたんで、うー、うー、」

「主人の仕事先のとこかに捨てるはね、白
人は猫の奴かぬまいた、ハハ。」

「此頃、三ヶ月にもたうんのに、三匹産んで
又産む、お人、畜生、お、お、お、お、」

「おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、」

「おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、」

「おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、」

「おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、」

「おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、
おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、おは、」

未也。

4.4
は
又
,
車
庫
の
方
に
踵
を
返
し
た
。

余
 一
 書
 人情
 感
 書
 竟
 詞
 尖
 端
 是
 建
 誰
 九

往來
鋪
送
皮
し
始
め
た
。
事
屋
の、親
友
の
定
後

一一一

近代科學の
諸技術を支配
する冲積的友
縁

交錯、
その
組替
證を
隠蔽
して
送
つた
。
二階
樓

の東京
電
所
の
前
の
文
化
位
に
十
日

前
二十日
前
一
月

~~十月~~
~~九月~~
~~八月~~
~~七月~~
~~六月~~
~~五月~~
~~四月~~
~~三月~~
~~二月~~
~~一月~~
内
休
也

舞す口 風 鰐 カ、
糸の 物 胸 奥 の 血 を 下 腹 中 の
—

三
12
起
集
二
6
3
6

その中巻には

私
は
、
瞳
を
攻
け
た。
其
の
煙^{スモーク}
を
吸^{スモーク}
う
や
う
に

古
典
的
な
基
盤
の
薄
い
中
心
を
軸
と
し
て
各
部
に
お
り
さ
か
つ
て
あ
る

刻
入
解
ノ
元

無
解

無

何

世
下

人
叔

九
三
十
五
十
三

和
一
一
一
無
遠

妻は輕く笑ふ声に彼に答へて女に

言
彼
其
其
其
其
其
其

七
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

是もと
か、
う、
字、
立、
つ。
言、
ふ、
ふ、
く、
た、
め

て
と
ナ
、
く
く
、
肉
氣
の
オ
ハ
サ
ニ
た
う
乙
、
よ

くま、失速、左方、
新告事、
9

に、
好
フ
サ
カ
ノ
た
あ

報告

彼
は
歌
、
二
三
左
、

五
フ
12
ナ
2
梓
子
ス、
、
外、
カ
ス
部
7
2
事
長

三
反
、
娘
12
柿
培
七
、
、
雪
、
古
、
依
は
、
海
入

七 推 7 2 凡 談 口 亡 卽 去 始 勢 左 6

ひ
、
如
は
、
と
ゝ
一
た
ろ
そ
、

こ
れ
も
説
書
大

三

[illegible]

天
 子
 之
 意
 也
 一

あきふたし

安
付
院
フ
下
フ

經

彼の素情を逆説一た
彼の素情を逆説一た

彼の態度、眼付、言葉便々、平常の彼であつた。

結局、私は、貴嬢を愛してゐる。と、矢張り、

「さうだが、おぼやかし、さうぢやなく無うか」と

さう言ひ、彼の口元は可なり昂奮し、顔に光を

僕達も、さう囁き、愛を以てもうなり、た

「さう、さう、女は誰か」といふ女

「さう」

「さう、さう、女は誰か」といふ女

彼は唇を歪め、彼の顔白き瞳めを

縫ふは、彼の瞳の裡で靜かに揺るを

「さう」

断髪し、眼鏡を掛けた。彼は、愛に

縋る。彼は、左前を言ふ。さう、

何と、さう、さう、さう、

「さう、さう、さう、さう、

「さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、

「さう、さう、さう、さう、

「さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、さう、

およし、才二世の
あかしな娘さんか。
将来

いゝ娘を升つておけり、
 妻は、晝のてこ、話しておけり、
 そとから、世間おなご無駄話や、
 のた雑事を話題にして、三十分程、
 燈を点けたら、いふ、
 彼が、毫のうしろと、
 何となく、
 同時に、
 妻は、

9
手
錦
方
呼
7
下

す
し
し
し

氣を用いて、
糸の
前
婦人
に
整
い

今日
珍
人
訪
皮
牛
乙
布
上
一

女
 子
 十
 三
 五
 二

光朝卿之は、二十五年
乙丑。二月、
乙卯。思ふ方ハ。

結婚
 の
 後
 も
 や
 太
 子
 を
 養
 育
 し
 て
 上
 る
 事
 が
 多
 い
 と
 な
 り
 ま
 す

三
りね
十八
と
う
一
と
月
外
衛
道
七
箱

今、窓外、生る花、白、舞、車、走、る、父

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

「さう、スィーハー」

「さう、一朝野文は、漁牛徹に明眸を輝か

し、烏度、仲山な、美を光れた

「いや、おー、半生に誰

とて、いっ男の、
（結句、好意をうへる事がある）

「さあ、夢見笑ひ、師の女を、懐柔目に抱に

入木乍ら、まあ、おやノくり女さ、お」

「それ、二年半たあ、又お受も、おさずや

「た、おさ」と、さうさうに吐き出すた

「さあ、紅女の向う、ソファに坐つて、

「さう、一婦に、大平澤を、
（越へた）おさの、昨日

「さう、おさ」

「さう、二年半は、さうな短あ、
（時）おさ」

「さう、おさ、おさ、おさ」

「さう、さあ、偏向、おさ、おさ、おさ」

「さう、さあ、おさ、おさ、おさ」

「さう、さあ、おさ、おさ、おさ」

「さう、正式に、おさ、おさ、おさ」

「さう、おさ、おさ、おさ」

「さう、おさ、おさ、おさ」

夕色を、言、主と、朝郎と、娘と、
の、とて、朝郎と、早、早、早、早、
く、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
お庭と送り、お、お、お、お、お、
ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、

朝郎、主と、お、お、お、お、
朝郎、主と、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、

[illegible]

足
僧
に
た
ふ

(4)

二
三
／
十
五
五

七
十

短
骨

女
一
9
體
2
4

[illegible]

三

宮島結燈下大母の契を、
血口、急勢方生は
に續り重女古衣共は、
流に、夫加牛活の夜絶
延痛お友今思ふ程十三才も満ふ
西人の性理お友
~~手帳~~
入たり。
家か石ぬい
五又こゝ等ひ、
言は、
先般モ君ききしやうに、
夫の許を去りまし
と。 ~~手帳~~

[illegible]

い、其日、也、
を、
同時に、
一、
た。

朝七時頃、
歸り、
若し主人は、
も、
ひ、
には、
今、
女、
と、
さ、
た、

も、
ひ、
には、
今、
女、
と、
さ、
た、

も、
ひ、
には、
今、
女、
と、
さ、
た、

も、
ひ、
には、
今、
女、
と、
さ、
た、

も、
ひ、
には、
今、
女、
と、
さ、
た、

のほ、要人~~が~~ ~~親~~ ~~友~~ ~~と~~ ~~の~~ 模~~範~~ ~~と~~ 微~~小~~ ~~な~~ ~~か~~ ~~ら~~
二ヶ月とは過~~り~~ ~~ひ~~ ~~ろ~~ ~~く~~ ~~で~~ ~~し~~ ~~た~~。

友人の情事を細かに申し述べ、必要はあり
まがま~~り~~。

一生に一愛~~の~~ ~~恋~~ ~~を~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~し~~ ~~た~~。
、彼~~の~~ ~~人~~ ~~の~~ ~~恋~~ ~~主~~ ~~が~~ ~~言~~ ~~葉~~ ~~を~~ ~~、~~ ~~言~~ ~~葉~~ ~~に~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~、~~ ~~血~~ ~~も~~ ~~な~~

も情~~け~~ ~~こ~~ ~~、~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~妻~~ ~~と~~ ~~若~~ ~~か~~ ~~男~~ ~~を~~ ~~、~~ ~~自~~ ~~分~~ ~~が~~ ~~毛~~ ~~を~~
こ~~い~~ ~~て~~ ~~、~~ ~~儘~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~空~~ ~~婚~~ ~~の~~ ~~交~~ ~~換~~ ~~を~~ ~~結~~ ~~了~~ ~~す~~ ~~し~~ ~~た~~。

半年~~の~~ ~~か~~ ~~り~~ ~~の~~ ~~親~~ ~~友~~ ~~の~~ ~~後~~ ~~に~~ ~~、~~ ~~彼~~ ~~の~~ ~~人~~ ~~は~~ ~~、~~ ~~哀~~ ~~な~~
の空婚~~の~~ ~~遺~~ ~~り~~ ~~を~~ ~~人~~ ~~生~~ ~~を~~ ~~な~~ ~~め~~ ~~せ~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~、~~ ~~言~~ ~~つ~~ ~~て~~ ~~、~~

近く、妻を親~~別~~ ~~す~~ ~~よ~~ ~~、~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~妻~~ ~~と~~ ~~若~~ ~~か~~ ~~男~~ ~~を~~ ~~、~~ ~~自~~ ~~分~~ ~~が~~ ~~毛~~ ~~を~~
而し、~~妻~~ ~~の~~ ~~弟~~ ~~と~~ ~~は~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~、~~ ~~幼~~ ~~き~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~

一年概~~観~~ ~~の~~ ~~後~~ ~~、~~ ~~安~~ ~~江~~ ~~、~~ ~~こ~~ ~~う~~ ~~い~~ ~~ふ~~ ~~も~~ ~~彼~~ ~~の~~ ~~人~~ ~~を~~
満足~~さ~~ ~~せ~~ ~~る~~ ~~事~~ ~~が~~ ~~な~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~こ~~ ~~と~~ ~~を~~ ~~感~~ ~~知~~ ~~し~~ ~~た~~

同時に、~~新~~ ~~妻~~ ~~自~~ ~~身~~ ~~も~~ ~~な~~ ~~り~~ ~~終~~ ~~り~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~、~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~信~~ ~~に~~ ~~き~~
す、~~新~~ ~~妻~~ ~~自~~ ~~身~~ ~~も~~ ~~な~~ ~~り~~ ~~終~~ ~~り~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~、~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~信~~ ~~に~~ ~~き~~

こ~~の~~ ~~信~~ ~~に~~ ~~き~~ ~~、~~ ~~十~~ ~~年~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~、~~ ~~夫~~ ~~常~~ ~~生~~ ~~活~~ ~~が~~ ~~忙~~ ~~し~~ ~~い~~
こ~~の~~ ~~信~~ ~~に~~ ~~き~~ ~~、~~ ~~十~~ ~~年~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~、~~ ~~夫~~ ~~常~~ ~~生~~ ~~活~~ ~~が~~ ~~忙~~ ~~し~~ ~~い~~

こ~~の~~ ~~信~~ ~~に~~ ~~き~~ ~~、~~ ~~十~~ ~~年~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~、~~ ~~夫~~ ~~常~~ ~~生~~ ~~活~~ ~~が~~ ~~忙~~ ~~し~~ ~~い~~
の秘~~事~~ ~~に~~ ~~當~~ ~~り~~ ~~て~~ ~~愕~~ ~~然~~ ~~と~~ ~~な~~ ~~り~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~、~~ ~~け~~ ~~れ~~ ~~は~~ ~~い~~ ~~と~~

け~~れ~~ ~~は~~ ~~い~~ ~~と~~ ~~、~~ ~~彼~~ ~~の~~ ~~情~~ ~~事~~ ~~は~~ ~~違~~ ~~う~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~、~~ ~~け~~ ~~れ~~ ~~は~~ ~~い~~ ~~と~~

三
 の
 解
 心
 、
 才
 っ
 か
 り
 破
 境
 二
 十
 二
 五
 十
 の
 二
 三
 五
 〇

[illegible]

方
 乙
 新
 4
 2
 1
 2
 五
 左
 3
 章
 抱
 12
 章
 抱
 七
 傍
 4
 2
 1

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

イ
ウ
エ
オ
カ
キ
ク
ケ
コ
サ
シ
ス
セ
ソ
タ
チ
ツ
テ
ト

亥
 本
 光
 子
 12
 上
 子
 海
 支
 配
 1/2
 女
 外
 一
 五
 十
 十
 十
 亥
 、

今、
能
たう

77
 1
 廿
 3
 5
 7
 9
 11
 13
 15
 17
 19
 21
 23
 25
 27
 29
 31
 33
 35
 37
 39
 41
 43
 45
 47
 49
 51
 53
 55
 57
 59
 61
 63
 65
 67
 69
 71
 73
 75
 77
 79
 81
 83
 85
 87
 89
 91
 93
 95
 97
 99
 101
 103
 105
 107
 109
 111
 113
 115
 117
 119
 121
 123
 125
 127
 129
 131
 133
 135
 137
 139
 141
 143
 145
 147
 149
 151
 153
 155
 157
 159
 161
 163
 165
 167
 169
 171
 173
 175
 177
 179
 181
 183
 185
 187
 189
 191
 193
 195
 197
 199
 201
 203
 205
 207
 209
 211
 213
 215
 217
 219
 221
 223
 225
 227
 229
 231
 233
 235
 237
 239
 241
 243
 245
 247
 249
 251
 253
 255
 257
 259
 261
 263
 265
 267
 269
 271
 273
 275
 277
 279
 281
 283
 285
 287
 289
 291
 293
 295
 297
 299
 301
 303
 305
 307
 309
 311
 313
 315
 317
 319
 321
 323
 325
 327
 329
 331
 333
 335
 337
 339
 341
 343
 345
 347
 349
 351
 353
 355
 357
 359
 361
 363
 365
 367
 369
 371
 373
 375
 377
 379
 381
 383
 385
 387
 389
 391
 393
 395
 397
 399
 401
 403
 405
 407
 409
 411
 413
 415
 417
 419
 421
 423
 425
 427
 429
 431
 433
 435
 437
 439
 441
 443
 445
 447
 449
 451
 453
 455
 457
 459
 461
 463
 465
 467
 469
 471
 473
 475
 477
 479
 481
 483
 485
 487
 489
 491
 493
 495
 497
 499
 501
 503
 505
 507
 509
 511
 513
 515
 517
 519
 521
 523
 525
 527
 529
 531
 533
 535
 537
 539
 541
 543
 545
 547
 549
 551
 553
 555
 557
 559
 561
 563
 565
 567
 569
 571
 573
 575
 577
 579
 581
 583
 585
 587
 589
 591
 593
 595
 597
 599
 601
 603
 605
 607
 609
 611
 613
 615
 617
 619
 621
 623
 625
 627
 629
 631
 633
 635
 637
 639
 641
 643
 645
 647
 649
 651
 653
 655
 657
 659
 661
 663
 665
 667
 669
 671
 673
 675
 677
 679
 681
 683
 685
 687
 689
 691
 693
 695
 697
 699
 701
 703
 705
 707
 709
 711
 713
 715
 717
 719
 721
 723
 725
 727
 729
 731
 733
 735
 737
 739
 741
 743
 745
 747
 749
 751
 753
 755
 757
 759
 761
 763
 765
 767
 769
 771
 773
 775
 777
 779
 781
 783
 785
 787
 789
 791
 793
 795
 797
 799
 801
 803
 805
 807
 809
 811
 813
 815
 817
 819
 821
 823
 825
 827
 829
 831
 833
 835
 837
 839
 841
 843
 845
 847
 849
 851
 853
 855
 857
 859
 861
 863
 865
 867
 869
 871
 873
 875
 877
 879
 881
 883
 885
 887
 889
 891
 893
 895
 897
 899
 901
 903
 905
 907
 909
 911
 913
 915
 917
 919
 921
 923
 925
 927
 929
 931
 933
 935
 937
 939
 941
 943
 945
 947
 949
 951
 953
 955
 957
 959
 961
 963
 965
 967
 969
 971
 973
 975
 977
 979
 981
 983
 985
 987
 989
 991
 993
 995
 997
 999
 1001
 1003
 1005
 1007
 1009
 1011
 1013
 1015
 1017
 1019
 1021
 1023
 1025
 1027
 1029

采也
吟
一
切
古
詩
事
其
臨
者
付
三
人
力

三人共世
こゝろの
病
減
を
宣
告
致
す
と
す

分
訪
、
飛、
、
煙
東
二
左、
~~新~~
自
身
、
今
休
去
房。

1. 五才左
配老若
正財
加
7
2
夫の
妻
他

と
に
馬
に
長
こ
こ
書
女
の
志
は
こ
こ
お
ま
と
申
一
オ
オ

あ
わ
たす
あ

あ

同
也
方
く、
彼
人
~~も~~
態
主
も。
之
に
并
ふ

何
 子
 平
 陽
 在
 故
 一
 二
 五
 三
 時
 二
 在
 集
 二
 言
 華
 又
 親

リ、
↑
足
も
志
さ
り
わ
え
ッ
乾
草
／＼
五
す
／＼
T₂
○
餅
一
日
一
日
1

[illegible]

支那の歴史

人
首
垂
下
正
容
貌
之
悍
廉
士
之
升
之
子
訓
之
乃
友

10 廿 七 持 7 2
 五 才 了
 乙 4 12 七
 4 3 3 3
 了 了

病婦に焼酎
すゝめ
能
る
燐
な
ま
を
嫌
み
で
人
生

七 東 男 七 吹 7 2 五 去 去 6

吹
ほ
丁
に
、
こ
ろ
一
こ
こ
こ
ま
こ
こ
か
。

新
は
最
少
夫
か
ら
手
交
で
別
れ
ま
し
た。

12
空橋の
な
い
生
活
た
つ
た
か
ら
こ
う

之
 何
 人
 在
 列
 中
 有
 其
 也

女
と
一
う
星乃也
總て毛
乃や
人
はまけ柳
せ

二
九
魚
人
を

飛
衣
に
さ
す
た
ろ

素
衣
三
十
一
才
の

人ありきす

牧師傳

愛
男
女
子
兄
弟
父
母
兄弟
父母

辨
指

を
お
み
み
心
情
心
一
点
の
あ
り
ま
う
か
。

あ
き
つ

下
さ
う
、

人
錦
様

々
々
々

て
て
て
一
人
う
青
斗
か
み
み
ま
す
の

自分、
他人の
欠陥を
諷刺し、
批判し、

自今以後

熟
斗
七
廿
如
、
他
の
男
と
研
竟
に
群
ふ
な
配
と
、

合
つ
し

 み
、
、
、
を
、

 壁
を
張
て

 太
牛
角
の
戸
に

 を

 青
年

の
鳥
博
河
洲
一
ト
く
り
ろ
た
う
て
み
り
オ
ち
く
ろ
。

三
カ

端
 征
 人
 生
 在
 辭
 女
 3
 5
 奪
 奪
 恨
 了
 了
 不
 自

威士尼

事の
事の
和
女
ひ
あり
き
た

神
子
12
—
部
—
七
方
生
也
致
—
た
—
乙
士
—
マ
ます

津
標
付

米
の
糶
を

言
の
金
主
の
所
り
所
小
飛
遊

ひ
あ
餅
し
下
さ
り
ま
さ
ち
の
と
信
ハ
こ
ろ
ま
す
。 同
時
に

無の
無ハ夫
婦也、
憂慙方
レ
一
二
佳
女
一
左
レ
二
一

地方
々々
境
通
人
区
の
音
に
新
た
い
東
東
東

かき
あ
2
下
÷
2
4
信
4
ま
す
0

五
印
荷

方
家
坊

丁
十
一
〇

新
は
、
世
に
捨
て
ら
れ
た
女
は
、
た
く
さ
な
女
に
な
り
ま
す

奥さん

お會ひして話を聞けり。言を、手紙で
併も郵用紙に夫禮さして戴きます。

あなたの御厚意に依り、
お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

お礼を言ひます。

いつ迄残すかも知れぬ。不面目なての若し
日の事美を文章に。お送りするがいたす。

巻うたが。師推察下さるやうに。言葉。私

はキミちゃんを愛します。そして又

キミちゃんには私に如き（と解して下さい）を持って

ます。

かう、たし又持ち交換は。述る者の夫が神様には、

相手の瞳の裡に隠さふ。じつと思ふの事をも。愛見

さしあふは。おれ。若者。何かが。愛人への。おれ

ます。

偉大な。心の。動を。毛。髪。の。衝。に。も。言。葉。の

韻。律。に。も。微。妙。な。ニ。ユー。ン。が。明。王。感。に。も

ます。親。感。は。迄。も。生。来。ま。す。ま。つ。が。

もし。キミちゃん。が。電。話。を。掛。け。て。恩。謝。の。手。合

り。沙。動。も。は。ま。し。て。愛。を。な。つ。た。う。徒。は。決。し

昨日行く。愛。は。な。か。う。た。

／＼。は。は。は。／＼。心。を。持。て。下。過。さ。う。根。を。歸。り。下

私。は。心。を。も。刻。ん。び。た。

踏斗破るれを恋愛感情は、
舟の恋愛に因る

お大きな海を横へて行く

近々結婚は別々 人はさう言ふ だが 舟

かけは 趣するなる結婚へ 結婚するたう 趣へる

或は船は回還つて五たひーやう せうーた

恋愛観 結婚観

逸もあれ 今日 今日とは 節あかな

句もかも ぴやんこひさ

お友達の元におた 増の ギミチヤン

半日後の今日 けしギミチヤンとは 甚だ変つてゐる

筆にふか 顔や瞳や頬の 肥した 唇は 舌は 舌は

如句ル 位で 断念は 断つてしまふ

けい、 恋愛者の 弱く又強く 情熱の 意気満々

恋の相手の 心算も 断つ 方では 趣か 語らばやうか

昨日 別れた時 言ひ きた

すこし ギミチヤン 僕が 病を 手に ぎしと 包み

いーし 恋ふ 下手 七返くいて ね ね ね ね

に背^{もたれ}つて、いゝ迄も、さうしてまた。

電車は、^{交り}来りやう方^の道を走^りましてはるなかつた。行^きぬ^きの^き自^ら佛^も車^も。
左。

私は、^い混^み合^ひの^の一^つ題^を。
手^を差^し延^ばな^いせの^の狩^に、^舞と^て、女^の蔭^に

樹^の下^の蔭^のの^の夫^の端^が、^顔を^をと^をえ^けた。

「^女の^の来^き業^を」、^私は、^使の^の事^を、^と

私は、^花の^の煙^を、^煙か^か、^白の^の自^ら身^に堪^えつた。

肉^の体^のの^の過^り剰^りなく、
あ^の業^の加^へ、^こと^かい

林田盛雄

短

肉体の過剰

第

八枚

(九三二
廿一九)

林田盛雄

短篇

秋の一齣

電車を降りて、うすうす暮る晩秋の夜、閑けを
和は、オーハリの襟も言へ、頸に流木を冷め、
空をふと翳る、二ノ花の咲いて、馴れ、千ヤ
ガス、尾の赤鳥居をくぐつた。
客車に客は誰れも無かつた。和は老婦に逢
ひた。

「千ヤウ、くニを」
坊っちゃん、それとも、
と主人が別れ、びある肥えた、
叔母だ。

今、花はるの。
表向、松定斗を、女、別れの、
で、五ノ、つと、後、花、
た、二、銭の、花、時、花、
花、二、銭の、花、時、花、

花、二、銭の、花、時、花、
花、二、銭の、花、時、花、
花、二、銭の、花、時、花、
花、二、銭の、花、時、花、

随分、久しくあつた。

さ
う
。 胃腸病、
瀧丸
さ
う
た
う
た
か
ら
こ

今
迄
は
下
町
か
ら
上
へ

ト
ニ
さん
は、
話を
交し
合
う
、
銅
9
厘
を
47
2

一
4
二
一
新
月
古
0

多田之
い
う
もの
が
あ
る
か
、
友人
た
量
は

人
の
あ
と
に
た
肉
体
を
あ
の
横
に
通
し
て
し
る

料理用
大
き
な
ジ
ヤ
モ
コ
モ
赤
の
日
の
前
に

突
き
出
し
て
、
小
岸
に
、
言
、
た
。

[illegible]

二
 三
 弗
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

か、フ

44 は 眠 を 寝 っ ち

懐
ふ
た
も
の
か
お
一
と
訊
り
た
。

本物
九、
た、
一板置、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、

たれは
二ろ
ま
さ
か
て
う
X
い
い
う
に

ハ
フ
カ
ー
ト
ー
は
う
ま
(冬)
き
2
0
—

知
 は
 平
 之
 の
 不
 ハ
 又
 琳
 の
 富
 貴
 を
 一
 枚
 買

姓 ~~姓~~ 住 所 在 書 込 人 名

ふ
ん
い
し
み
時
弄
化
又
亮
か
る
、
江
つ
井

男	つ
が	二
上	・
二	顔
来	を
二	保
・	錯
和	二
9	た
白	鞆
側	皮
に	斗
腰	た
を	7
控	に
る	般 ^し
た	ま
。	也
	た
	山

1、
口
—
又
筆
破皮
分
言
7
+2
o

ハ
2
✓
市
は
顔
車
貝
堂
の
下
る
2
9
男
の
4/2

初
七
~~天~~
訓
那
方
ハ
ハ
ハ
不
無
相
ハ
士
コ
以
下
左
。

多田
之
小男
、
~~千~~
前
、
上
迄
迄
也

[illegible]

五料全書は、高價なり。かし

[illegible]

一、
人本を
どうあ
らう

日
 本
 の
 娼
 女
 の
 子
 の
 高
 等
 師
 範
 校
 を
 出
 ず
 ず
 中
 学
 の

英
話
の
失
字
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

人
た
フ
タ、
し
相
に
、
細
フ
瞬
を
し
ハ、
左
た
た
フ
へ
、
唯

泣
 の
 過
 利
 い、
 右
 隅
 り
 か、
 悲
 く、
 悲
 す
 毎
 に、
 右
 手

7.
 12
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 5

倭の事
春、
歸國の
途に
て
其
、
善

子
12
往
う
と
子
57
や
け
く
、
金
は
出
さ
ぬ
す
や
る
;

三
フ
二
、
置
フ
二
そ
上
言
、
二
事
す
よ
ろ
け
ん

突
れ
こ
や
ま
心
も
り
た
ふ
ハ
尸
し

る
りや

ら
ろ

知
は
徳
笑
！
た

[illegible]

うんとと、相配った。

女の、手短を膝脇にし、歩み寄った。

「ヤロー」女は、前に立つた。

「ハロー」

「ハロー」

「ハロー」女は、たゞ、うろたへ、私にうろたへた。

た。

私は、微かに、腰に片手を支えた。女のく

る、なにより、曲った、腹のしどけな、衣襟に、

を、花と、潤せ、た、

うろたへ、た、

女は、有難う、と、言った。

「高き、は、何と、」

「高き、は、何と、」

「高き、は、何と、」

「高き、は、何と、」

「高き、は、何と、」

「高き、は、何と、」

「高き、は、何と、」

「高き、は、何と、」

「高き、は、何と、」

に
表
の
牛
字
に
歩
き
去
つ
た。
と
族
授
し
て、
女
は
辭
ふ、

トニ
之
ル
以
食
代
を
支
拂
ふ
時
に
、
訴
ふ
た

あ
イ
か
き

こ

さ
う
~~か~~
け
し
ろ

3. 言ふは、女
 をに押し
 12
 1. や
 3
 37
 1
 2
 3

た、
、
〜

和
18
.

ト
ニ

サ
ク

ワ

~~掛~~
~~現~~
~~リ~~
~~極~~
27
様

力
フ
フ
フ
フ
フ
フ

ひ
の
け
^二
た
一
白
走
人
久
,
う
あ
,
う
お
. ,
し
~

3
9
12
15

又
手
持
た
上
女
野
た
う
こ
冬
司
生
り
了
人
た
七

人。

十
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

木
福
元
二
三

新
第
4
12
リ
7
9
た7
2

一丁字，
電車道
路在
地切，
在
和
上。
電

信桂の
花の
声を
振舞
けり
木立

17
12
J

六ノ
 きの
 女
 女
 電事
 待
 待
 燈
 燈
 の
 月

3斗を避けゝるたのた。

「オウ、^ゴ」 信彦、愕つた声で答へた。

和は、女に前を塞がね、致し方なく立ち侍

まりた。

煩草 ^{なぐさ}

せば、和が壁に^てしゃうと燦す。壁に

まづ4の~~煙~~燈灯りて、花よりす。瞬を、和

の毛髪に、光を、ほく投け、揺れた。

一帯の^て、連れ^てやがた^と。

健は、病氣か^一和は、世の顔^とを^と睨め

たのを斗ふ、二井、おけ^てから、その土曜日

に^一 ^{煙の報知機がこたへた、かき}

9の^て女は平七に揺ら^て、曼曼と頬を

を~~煙~~に照らした。

どうして^て、女は^と和が笑ひ出た。二井は受

あうた^てのい、その本を、引つて^て下町に

買つて来た、箱^と4の^て混合言^と。おま^とお^と大

お前^は、^と夫^と待つ^てる人^とだ^とう^と。

女は^と、^と俯^つた。そ^と、木綿の靴

下を穿^てた靴^と、^と土を蹴^りか^う、電燈

中、^と、^と

エーエアヤ

定はトリ目

担々

堆生

加

の

時

を

續

く

大

道

・

オ

エ

ー

カ

リ

フ

タ

ス

・

ア

チ

カ

ニ

・

サ

1

2

・

部

多

・

区

・

柳

・

訪

・

大

道

景

・

左

・

そ

・

カ

・

人

生

・

澄

・

・

・

・

乾

・

左

・

・

如

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

香

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

掌
盤

波

五
板

林
田
盛
雄

一九三二
十一月

短篇「波」

林田盛雄

「あんたも、歸国なはるか、よろしく頼みます。」

と丁寧な口調で、見識ある老人が、機合から声を掛けた。

か、猪瀬は、昂奮した顔をその反対側に傾けた。

「こんな惨めなボロボロ、移民地生活に何の

魅惑があらますか」

彼は、定められた三隻船客の整然とした寝台にスリーパーズを抛り上げた。

「あんた、悪臭ソレビシやうな」
鼻をしかめて、賢夫人は、流行のフーニー

ハットで右眉を蔽って、白く毛皮のふくまが衣襟巻に顔を埋め乍ら、肉肥りの髪の一つを髪を連ね、高打夫人と房江に向けた。

「本当に、鬼でも、飼ってやしない。」

と大声で言いつけた賢夫人の、皮肉さ。

冗談とも付かぬ言葉に、
「お船がや、その見送人達よ、帰つたお船が、
この女連木に胡散な親縁を授けかけた。」

翌夫人は、高村夫人の袖を~~き~~つ^きて、
室を出た。後から肩にか、~~解~~縛り、憔悴し
た足取りで、管瀬が追つて来た。

A 甲被で、出航迄、徒然を、高村夫人と肩
に、物珍しく、サヤン、食意、胃を視る。

「と一瞥してから、翌夫人は、デウキの行
刺に肉体を背^て繞^りれて、猪瀬と向う合つた。

「おたか山に、未練の心、最後だ。と思ふ、
と鑄ん声で、幾分顔^を帯びた調子で猪瀬が

「^ふか^ふか^ふわー
と翌夫人は、輝かしい眸で彼の表情を眺め

た。
「僕が、性格破産したりに、生活能力を喪^うつ

て見たか、貴女には^あな^なか^かた。けれど一
今頃、お悼^{なげ}みですか？」

7	7	7	2	0	1
---	---	---	---	---	---

ㄅ	ㄆ	ㄇ	ㄏ
---	---	---	---

7

持
は
、
、
、
、
、

畫之入情

4x

引甲斐友

乙
 一
 十
 寸

林田盛雄創作紙

棧橋と、送別して離れ去る船の、暮空に曳
く星煙を、走り始めた自働車の輝からそり反
り乍ら強夫人は、即ち微笑を湛へた。
「どう也、空盞になつたりりり鍋たつた。
あし、

強夫人は、櫛の房に肩に腕を伸した。
「かゝの香水鑲に、未練があらうてゐる、

房には、一　　一　　

返辞にたちりた房には、夏の夕日の、微

這つ包にながら木子十八夜の櫛を、東井に

深紅に紅

あつて、窓の外に瞳を轉じた。

さうした房にの蓋取を、強夫人は窓紗と瞳

ひこぬた。

「房にさくなとは、若り、綺麗な男を一人、

あつかつて置つてさへみれば、これだけで、

を強、世の中を満ちるものよ」

何處からか、船の警笛が、響いて来た。

夕陽に反映する海面が、寶石をばら撒りた

やうに煌々した。

「海は、まあ、きれいなと。」

彼ノ結婚式に傍と

結婚式の挨拶、
最後まで
受け持つ。

寔を一新借りて、ツイニハナドを買ひ、
 ストーブ、交響器、家具類を買ひ、こゝに彼所
 、三軒位前かゝ。層あ人の群衆に、相次ぎ
 来りて、ヤリ接接を（お）いた。

あゝ有るな後輩の
田舎は、土う言ふ本うと、
望むべく、あの、
~~野~~人、日本に帰るべきぞ
か、女一人の身帯いせも、
表支えたりものひ

一
や
う
か
し

か、
女
人の
名
は、
常
葉
語
に
お
う
左
衛
の、

結婚式の挨拶辞令に、
さあ、さあ、さあ、さあ

う
あ
い
う
え
お
か
き
く
け
こ
さ
し
す
せ
そ
た
ち
つ
て
と
な
に
ぬ
ね
の
は
ひ
ふ
へ
ほ
ま
み
む
め
も
や
ゆ
よ
ら
り
る
れ
ろ
わ
を
ん

[illegible]

事場くの場倉、
良言は小主人の
機嫌次第に依る

一
一
マ
ハ
早
延
病
の
近
一
在
事
を
受
味
す

言華仁
返
在
方
方
在

27
 3
 4
 1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

田の
落
地
下
に
入
る
事
は
地
味
に
重
い

增
本
在

恒

11 技

25 11 技

15 11 技

[illegible]

不徒
僕に、
乙乙
と書
の
心算は
無
うか
た

[illegible][illegible]

小門に
下
女
子
学
校
に
入
学
す
る
た
い
が

ア、イ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ、サ、シ、ス、セ、ソ、タ、チ、ツ、テ、ト、ナ、ニ、ヌ、ネ、ノ、ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ、マ、ミ、ム、メ、モ、ヤ、ユ、ヨ、ラ、リ、ル、レ、ロ、ワ、ヰ、ヱ、ヲ、ン、ヴ、ヵ、ヶ、ヷ、ヸ、ヹ、ヺ、・、ー、ヽ、ヾ、ヿ、ヰ、ヱ、ヲ、ン、ヴ、ヵ、ヶ、ヷ、ヸ、ヹ、ヺ、・、ー、ヽ、ヾ、ヿ

を呉衣つゝ 恒の傍ル新ク流るゝ事な

身ヲクラーヤル位わな 恒に、白き人々年々之其の
年々ク下女は、五才と雖も難七おれ、云々、

恒の故友に、しやけつゝ、~~此~~始めた

三年位も、~~此~~恒の心は、何と云ふ、~~此~~下、

女は、~~此~~。 富くは、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

しは、~~此~~ 念り入つた、~~此~~ 云々、~~此~~

稀小い女な

今頃、女は、~~此~~ 下、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

とた、~~此~~ 大抵、~~此~~ 下、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

恒の、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

うい、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

恒の、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

恒の、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

恒の、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

恒の、~~此~~

恒の、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

恒の、~~此~~

恒の、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

恒の、~~此~~ 恒の心は、~~此~~

之、後向きなり大崎には、
 吾等の舟が流るる所
 は、鯉、鯉、大まぐ掬ひて
 下りの鯉の物動きに
 驚き、向ふに
 舟の向ふに

[illegible][illegible][illegible]

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840.

20. 第 12
 一
 21. 第 13
 22. 第 14
 23. 第 15
 24. 第 16
 25. 第 17
 26. 第 18
 27. 第 19
 28. 第 20
 29. 第 21
 30. 第 22
 31. 第 23
 32. 第 24
 33. 第 25
 34. 第 26
 35. 第 27
 36. 第 28
 37. 第 29
 38. 第 30
 39. 第 31
 40. 第 32
 41. 第 33
 42. 第 34
 43. 第 35
 44. 第 36
 45. 第 37
 46. 第 38
 47. 第 39
 48. 第 40
 49. 第 41
 50. 第 42
 51. 第 43
 52. 第 44
 53. 第 45
 54. 第 46
 55. 第 47
 56. 第 48
 57. 第 49
 58. 第 50
 59. 第 51
 60. 第 52
 61. 第 53
 62. 第 54
 63. 第 55
 64. 第 56
 65. 第 57
 66. 第 58
 67. 第 59
 68. 第 60
 69. 第 61
 70. 第 62
 71. 第 63
 72. 第 64
 73. 第 65
 74. 第 66
 75. 第 67
 76. 第 68
 77. 第 69
 78. 第 70
 79. 第 71
 80. 第 72
 81. 第 73
 82. 第 74
 83. 第 75
 84. 第 76
 85. 第 77
 86. 第 78
 87. 第 79
 88. 第 80
 89. 第 81
 90. 第 82
 91. 第 83
 92. 第 84
 93. 第 85
 94. 第 86
 95. 第 87
 96. 第 88
 97. 第 89
 98. 第 90
 99. 第 91
 100. 第 92
 101. 第 93
 102. 第 94
 103. 第 95
 104. 第 96
 105. 第 97
 106. 第 98
 107. 第 99
 108. 第 100
 109. 第 101
 110. 第 102
 111. 第 103
 112. 第 104
 113. 第 105
 114. 第 106
 115. 第 107
 116. 第 108
 117. 第 109
 118. 第 110
 119. 第 111
 120. 第 112
 121. 第 113
 122. 第 114
 123. 第 115
 124. 第 116
 125. 第 117
 126. 第 118
 127. 第 119
 128. 第 120
 129. 第 121
 130. 第 122
 131. 第 123
 132. 第 124
 133. 第 125
 134. 第 126
 135. 第 127
 136. 第 128
 137. 第 129
 138. 第 130
 139. 第 131
 140. 第 132
 141. 第 133
 142. 第 134
 143. 第 135
 144. 第 136
 145. 第 137
 146. 第 138
 147. 第 139
 148. 第 140
 149. 第 141
 150. 第 142
 151. 第 143
 152. 第 144
 153. 第 145
 154. 第 146
 155. 第 147
 156. 第 148
 157. 第 149
 158. 第 150
 159. 第 151
 160. 第 152
 161. 第 153
 162. 第 154
 163. 第 155
 164. 第 156
 165. 第 157
 166. 第 158
 167. 第 159
 168. 第 160
 169. 第 161
 170. 第 162
 171. 第 163
 172. 第 164
 173. 第 165
 174. 第 166
 175. 第 167
 176. 第 168
 177. 第 169
 178. 第 170
 179. 第 171
 180. 第 172
 181. 第 173
 182. 第 174
 183. 第 175
 184. 第 176
 185. 第 177
 186. 第 178
 187. 第 179
 188. 第 180
 189. 第 181
 190. 第 182
 191. 第 183
 192. 第 184
 193. 第 185
 194. 第 186
 195. 第 187
 196. 第 188
 197. 第 189
 198. 第 190
 199. 第 191
 200. 第 192
 201. 第 193
 202. 第 194
 203. 第 195
 204. 第 196
 205. 第 197
 206. 第 198
 207. 第 199
 208. 第 200
 209. 第 201
 210. 第 202
 211. 第 203
 212. 第 204
 213. 第 205
 214. 第 206
 215. 第 207
 216. 第 208
 217. 第 209
 218. 第 210
 219. 第 211
 220. 第 212
 221. 第 213
 222. 第 214
 223. 第 215
 224. 第 216
 225. 第 217
 226. 第 218
 227. 第 219
 228. 第 220
 229. 第 221
 230. 第 222
 231. 第 223
 232. 第 224
 233. 第 225
 234. 第 226
 235. 第 227
 236. 第 228
 237. 第 229
 238. 第 230
 239. 第 231
 240. 第 232
 241. 第 233
 242. 第 234
 243. 第 235
 244. 第 236
 245. 第 237
 246. 第 238
 247. 第 239
 248. 第 240
 249. 第 241
 250. 第 242
 251. 第 243
 252. 第 244
 253. 第 245
 254. 第 246
 255. 第 247
 256. 第 248
 257. 第 249
 258. 第 250
 259. 第 251
 260. 第 252
 261. 第 253
 262. 第 254
 263. 第 255
 264. 第 256
 265. 第 257
 266. 第 258
 267. 第 259
 268. 第 260
 269. 第 261
 270. 第 262
 271. 第 263
 272. 第 264
 273. 第 265
 274. 第 266
 275. 第 267
 276. 第 268
 277. 第 269
 278. 第 270
 279. 第 271
 280. 第 272
 281. 第 273
 282. 第 274
 283. 第 275
 284. 第 276
 285. 第 277
 286. 第 278
 287. 第 279
 288. 第 280
 289. 第 281
 290. 第 282
 291. 第 283
 292. 第 284
 293. 第 285
 294. 第 286
 295. 第 287
 296. 第 288
 297. 第 289
 298. 第 290
 299. 第 291
 300. 第 292
 301. 第 293
 302. 第 294
 303. 第 2

それか 最上うう言た。 下は、小うも彼う
横う送しうにねて、おあを

し 鈴也

大ま、笑う 晝た

言葉を ぬき 白う

ニヤニヤし 解う 下は 笑う、解も 初うた

下は 解うに 解うた。

走れと 走れと 走れと

と 下は

おめー 下は 大まに 解に 言うた

何と

言葉は、事ある持てを 里より

すう 下は 解に 白う

家も たり ありと 果て 解に 言た。

下は 解に 言た。 解に 言た。 解に 言た。

と 下は 解に 言た。 解に 言た。 解に 言た。

下は 解に 言た。 解に 言た。 解に 言た。

言え 下は、下は 解に 言た。 解に 言た。 解に 言た。

下は

下は 解に 言た。 解に 言た。 解に 言た。

下は 解に 言た。 解に 言た。 解に 言た。

下は 解に 言た。 解に 言た。 解に 言た。

下は 解に 言た。 解に 言た。 解に 言た。

腰の回ふふ事も地獄だ。

ハッ！
紅は、熱うゝゝた、顔面神速に麻痺する程

さ。年くた。

ハッ！
下女復た南無井

今日も、おまい方へた！
切なぐ相に掛つ

ほい声もあつた。

紅は熱う。君。

熱く！
下女は、さうあつた。に事

通！
二三もにづ、下女は、さうあつた。何故か

病を犯けた。

アッス水、おトリ

紅は、さうしうも煙う！
日向きもあつた。

いー！
何故飲く？
さうなう！
さう！

！
今日も、さうなう！
さう！

！
今日も、さうなう！
さう！

！
今日も、さうなう！
さう！

！
今日も、さうなう！
さう！

！
今日も、さうなう！
さう！

！
今日も、さうなう！
さう！

陳其年

七十四

逆夢也重夢也

已

駒島が電柱の横に立ち寄り、
また、隣りの、
七、
七、

彼女が、
見送る、
見送る、
見送る、

あ、
あ、
あ、
あ、

あ、
あ、
あ、
あ、

あ、
あ、
あ、
あ、

あ、
あ、
あ、
あ、

あ、
あ、
あ、
あ、

と、彼女ほ、おそれいりりしに堪へるわう
 た。——さうも想念が、他をなかり堪えを生
 むといは、泡のやうに消えて、去るには、
 世をたぐ、書夫人も進歩して時、事行ち、
 彼女の、~~あつ~~境ひ、お芝並に返つて来た
 引く。彼女片想を、~~あつ~~其れ生かした押し置
 けた。
 あつとも、結構、幸附た也。
 彼女が、さう一太息後、望に、病なり痔、
 したりと、降り込めて、うき、後め、事を購か、
 彼女、~~あつ~~現、きた。
 へい、と、彼女は叫び、まに（あ）りて、掌に、
 た、直ちに、離れたら、解られた。）
 さう、毛身は、彼女の横に腰を叩いて、
 何を老い、~~あつ~~（た）
 何にも、
 いはい、——毛身に、彼女も、彼女ほ、
 けだ、おかし、い、サイ、おかし、
 かつとも、~~あつ~~（た）
 と言ふ下、彼女の声は、アムリカ生来の、
 かゝつてゐるた。

吾人は、拙くに生れた儘で、暫く黙つて
た。多時、一盡りのリス、リス、又、能く新を
待たした。

「うう、女中」 吾等、空を吹くうた。
「女、綺麗」 女中、吾等を令えた。

「吾等、此處に居る」

「女、何の事か」 女中、吾等を令えた。
「吾等、此處に居る」

「女、何の事か」 女中、吾等を令えた。
「吾等、此處に居る」

「女、何の事か」 女中、吾等を令えた。

「女、何の事か」 女中、吾等を令えた。
「吾等、此處に居る」

「女、何の事か」 女中、吾等を令えた。
「吾等、此處に居る」

「女、何の事か」 女中、吾等を令えた。

わ

イツト夫人とは主

お月

三十日

173

針

七枚

林田盛雄創作紙

さうね。美しう娘が来り人りりたさ。

夫人が笑ひ申す。たゞ、
木は

野郎共と、麻痺すやうな。この僕が若さ。

ひすか、
と言つて、輕い皮肉を毛繕ひ

た、
はさる面白顔を

招き、
お萬様、おれに白々

ハ、
急ぐ人、おれ

と夫人は、
小犬に東へ来て往く

金之助は、
おれに教へて

後で、夫人は、
おれに生

て、
おれに生

都市人、
おれに生

生と、
おれに生

この美し、
おれに生

おれ、
おれに生

おれ、
おれに生

おれ、
おれに生

おれ、
おれに生

「うへー」私は大佛に驚く。彼女も顔で、
白く娘達を新婦宮までやれ集める
て。よくてもなり。
ひも一た、おえ。夫人は電話交換手や
うい傳し、黄魚の声と言った。
女は、隣一人ひきさしてひける。
やま、失敗、失敗。
呵子より、徳川台多な声で来る。
拳闘士が、邦林魁太とか、昭火夫の妻には
私合はいり、健康心、芝居の、勝利への力を
二十回時日七割死とすき荷してあるこの夫人
は、私の描いた、深からるエニ深くお話を
握めて、その支助で、解身の手先に見えて
上り右腕に組めると、大阪明・新下とス
カートの目から星雲ナリー、高面の天井にあ
るさがら電機をサーレ。まぶしくもあるのだ
かした。

晝方、おしるこ、好き。
夫人は合計笑顔を、和に訪ねた。
「さう、なかの男子は、余り好きじゃない。」

等々信仰と言ふも。いゝやう、なほ、
言つてつて、私は、夫の頭を、あゝ顔
から、眉を、動かし、記し、一、筆を一、筆し
た。

又、は、定に、断崖に、出で、左、堂、山、窓、の、中、
に、田、越、と、度、本、を、言、訓、した。

又、此、等、も、之、に、信、仰、の、一、つ、ひ、了、と、法、主、は
力、声、で、吃、つ、た。

歸、の、時、一、番、後、か、う、薄、暗、の、中、降、り、た、
を、降、り、了、私、の、首、後、に、續、つ、て、走、る、能、く、降、り、た、

落、付、井、人、は、~~其、時、~~、私、の、膝、を、激、しく、衝、動、
した。で、その、才、突、き、の、交、動、で、私、は、

危、く、仰、面、沈、り、視、顔、者、院、を、身、の、背、身、を、突、き、平、
い、さ、う、と、い、ふ、般、が、歩、た、雨、を、指、の、壁、に、お、

う、つ、た、た、
この、人、の、と、私、は、叫、び、つ、つ、正、を、

踏、み、加、へ、し、こ、の、喉、を、咽、み、声、を、後、り、出、し、
た。

今、く、晝、う、は、不、注、意、過、き、ま、り、ま、

腐、か、た、紙、上、に、夫、人、が、定、時、を、過、した。

言、葉、を、増、す、

飛龍

野宮子產

人板

文三

日

林田盛雄

林田盛雄

近く、
左の
白鳥、
車に
乗る。
右の
車は、
左の
車と
同じ。

實の
 何處
 賭博
 女
 男
 毛
 歸
 二

[illegible][illegible]

人、
 不
 然
 則
 な
 る
 か
 ら
 文
 錯
 一
 二
 爲
 意

書、野原は、442、電柱、樹上、い、わ、の、
た、に、な、と、何、も、な、と、
り、二、の、ア、ン、ヤ、カ、結、文、等、の、
た、

[illegible]

うむ、
傳ふ、
倦ふ、
え
は
う

ハ
フ
シ

高
年
五
十
六

思は、
 すゝかり感心！、
 考ふく送草を歎


 1
 1/2
 0

力石を二つ三つ詰めた
 二つ三つを籠に三個
 口へじやの枝に結わ
 け付け、糸を寄附は
 細糸で繫ぎ合せて、一本
 にして書きたて、煮つ
 けつて書きた。

斜道
ル
人形
観
意
毛
疑
乙
た
角
い
ろ
の
崎
宮
介
邦

會
今
二
三
四
精
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

45
 1
 12
 0

力
一
、
27
口
、
ヤク
ヤク
力
力
、

金
 雲
 上
 土
 揺
 り
 足
 骨
 の
 手
 つ
 た
 こ

~~轉~~

馬雪芳事如左、
自費又左、
方左、
金左、
慈左、
左、

兩人時、
世聲を以て
一國同聲
に

モ
ノ
コ
一
エ
モ
シ
下
レ

下
ノ
下
。

夜
ハ。

夜
と
一

く、明きと、野原に輝りか、君をたぬくの神を
のくに集むる。夢の中を。

とく、アと、思ふ、アと、啼く、アと、アと、アと、
アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、

接し、ユと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、
アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、

流し、水たまり、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、
アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、

と、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、
アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、

と、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、
アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、

と、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、
アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、

と、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、
アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、

と、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、
アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、アと、

本館

便所

事は男の方、唐やノと一在端、

回書も七言句、言つた。

大う精ノ、二、

本、二巻、二、大う、精ノ、二、

男は、毛針を、二、朝、二、毛針を、

二、二、二、二、二、二、

二、二、二、二、

二、二、二、二、二、二、

二、二、二、二、二、二、

短

道

人三

奇日

ツ

ナ

、

七

井田雄雄

雷（うずらい）
八三一 六四一

歐州^行の、日本からの客をゆつゝ、一家

族が、夏の商を、提換甲乙、題かに賣つゝ

をた、

房には、ビヤリの前に腰を卸して、主客の

交すの古語を、新国を請うた。同く

ともたう、飛き流してつた。

お焼（やく）

突然、神七が、房に呼び掛けた。お房に

は新国を争う離土なつた。

お焼（やく）

房はさく

お焼（やく）、もびやうく、さう言つて、音の言

事をあつた。離土。

「アタシ」新国を急ぎに場所へ、先聲に手話を

言には、急ぐおめを、軽く微笑した。

水を一掴、お焼（やく）も来まらう。お焼（やく）

お焼（やく）、お焼（やく）に言うた。お焼（やく）、主客に

ア
メ
リ
カ
生
ま
れ
た
こ
の
田
舎
娘
に
し
て
し
よ

と 著 12 編 解 1 本、
何 務、
日 本 語 外、
本 大、
士 大

解り
オ
ウ
イ
エ
ー
エ
ニ
ー
上
等
友
言
葉
僕
乙

や、
曰至
至友
沈儀
は
至
木
火
上
心
一
二
一
一

かうきり
ゆき
なり

市
本
市

確
力
70
を
、
右
掌
に
烟
7
2
、
存
に
カ
、
差

の
前
の
、
し
か
じ
つ
の
章
に
、
糸
の
を
、
記
す

子
2
明
上
2
力
5
主
婦
1
字
1
1
1
釋
5
1
言
1

友

又
之

可
宜に載
る
来
り、
勢

あ
う

子
子
木
友
一
四
五
✓

不
 多
 、
 オ
 女
 子
 、
 一
 一
 と
 房
 比
 為
 、
 澤
 比
 中
 下
 下

[illegible]

1. 暖
同
在
12
3
4
2

何 去 12、
張 東 亦
禮 儀 作 法
事 必 自 然
安 心 于 上

神古 愉 悦 笑 興 友

さう。
 他。
 陸
 ま
 やう
 に
 な
 う
 たり、
 何
 り
 び

解之来さ
主入
事
生
空
空
美
を
井

天
一
十
二

一度、日本見物し、来りて

九
 声
 乙
 別
 乙
 可
 姓
 之
 乙
 得
 乙
 言
 乙
 乙

睡地
我の
幾方か
を、
伊江は
（
お姫
さん）
の
言

第 12 捕へくふにた

登朝，金車馬，夫人，子，笑，中，左。

房
記
之
夕
ハ
大
失
獲
尤
ハ
古
事

え
し

あ
は
さ
く

おな
た
し
し

不姪さく下ふ聴
たくとえ

女、
お嬢さん
一輪
花、
日本のお金持ち

方備ふ事違ふ、
少き、加へん言ふ、
かゝりと思ふ、

乙
ま
た
七
、
し

7
3
1
节
1
-
新
坡
七
7

主人が曉き中た
ろゝ
大城堀に突つ儘にた

17

全
に
す
あ
ハ
ハ
や
あ
ま
は
房
に
つ
に
あ
あ

心
し
ヤ
} し
友
亭
献
久
妹
江
苦
語
、
冬
前
七
呼
心

揺
 2
 す
 め
 ん
 27
 1
 や
 し
 夫
 人
 は
 コ
 ー
 ヒ
 を
 喰

24 止 又 乙 一 乙 也 婚 一 方 一 左 乙 一 也 一 一

恥
 か
 した
 ち
 と
 今
 に
 は
 首
 を
 垂
 べ
 ず
 の

報 天 下

6

1、2-1
おん
さく
し
大さ
てい
りゅう
い
男性ナ士
か
九

15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536

若く日連の
芳御書
綴せ、
記
主上の
安
事

[illegible][illegible]

月 幣 2 円
通 井 上 文 幸 の 校 室 云 々
思 考 新 作

教
 太
 頼
 微
 矢
 主
 如
 方
 と
 願
 け
 方
 へ
 意
 の
 手

1412
Ry
上
7
五
0

労働者は、
~~非~~ 非
 領土をめぐり
 通り道に
 あり

暫く
付、
今に
小
9
註
並一、
二、
舞
増は
平常の
鑑、
藝に
造

く
た
め
、
た。

き
こ
え、
こ
う
な
り、
思
ふ
方
吊
革
は、
愧

耶
十二、
摺
摺
摺
一、
婿
一、
曾
己
方、
夏
抵、
錫

鎗の海
 27
 紙
 世
 理由を
 等
 生
 来
 友
 友
 友

日
二
月
、
五

17
明
晴
下

2
三
六
一
十

第中
新女は
意の中
から、
鋪道を
見下ろし
てゐた。

昨日
午後
傍御考は
通う方み
一上

今日、午後、
の排
1412
午後9
半日を
花外一乙

$$\frac{3}{12}$$

軀女
十二
年
七
十
九
傷
者
日
一
過
得
大
一
日
不
勞
傷

左
 傳
 世
 留
 う
 付
 一
 ち
 の
 大
 う
 う
 〇
 う
 一
 氣
 的
 本
 記
 好
 奇

礼河内

惟乙有

五三

五三

未だ、冷之きふ地熱に煽られ、宵風が
生得く流れ来り、半日照りつた吾妻を、
うつと一しくせむ。
燈りも盡けず、赤は、蒼苔の覺（健急）
轢道を捨り清し〜鈴うゝるをた。
そこには、丑うさね／＼うむと下道へつて来
た。

天理教を身会仰賜今式をやする人になぬ
田りさくま、和り傍にまゝ大徳に、口十箇、
命かり和髪をりや／＼操り上げ、
祝詞通説をやるとなり、まは困り、
した。と
厚くして方、こゝをやりまうおこ
や、一之句を知らんべし。何れもうす
通説の之句を尋つても、つなりがうか
天理教を、先は謝るゝか、
甚急し乍ら、和り、終り、勞働に疲弊し、

わさうい田んさ、おろ顔を奥すした。

何じもりつひ、天理家と吾輩とてくつろ

けしきねー。

何んか人かぬし

君ももろつた草摺ひ、演説もあつた。

田んさ、心境を摺り下ろし、おれは奥の山麓も

おれつりくたあ、た。

何か言、大気、前で饅頭、〜牛乳、〜

さう言つた心理、老翁斗たも、おれ、終民の

條々、時會之言、時會、はけさも、おれ、

何調、草摺ひが生草摺り、〜、案、〜、

見、〜、〜、王、〜、〜、

〜、天理家、何れ、君、〜、〜、

〜、天理家、何れ、君、〜、〜、

〜、天理家、何れ、君、〜、〜、

〜、天理家、何れ、君、〜、〜、

〜、天理家、何れ、君、〜、〜、

〜、天理家、何れ、君、〜、〜、

〜、天理家、何れ、君、〜、〜、

〜、天理家、何れ、君、〜、〜、

ル
フ
目
々
に
、
君
ッ
〜
還
ク
ハ
ヲ
、

は
に
利
や
に
女
と
田

へ来た。天理教は、大伴の嫁まりは、漢之から

27

オーライ、
オーライ
刻上了

和
13
轉
去
揚
14
一
田
ノ
十
人
9
五
倒
9
宣
傳

辭
 12
 4
 書
 士
 4
 2
 2
 2
 1
 2
 1
 1
 作
 長
 15
 6
 5
 1
 仁

今度、日曜日に要人大会

271

木曜の逢に
君の夢を
手にか
金湯と

昭
旦
仁
德
言
下
方
夕
乙

田
ノ
文
下
古
や
意
人
や
う
に
極
え
一
と
報

人のあつた善良な微笑で、
運動を台座にする。

今班 9
銀 12
事 12
十五 15
位 15
9 9
種 9
27 27
1 1
、

十五分
一
二
言
子
乙
隨
分
我
了
已
一

55
 や
 十
 分
 377
 7
 2
 や
 8

田中ノ外郎ノ跡ニ
和ハ無病ニ
超立極

白曜着に車輪を以て。田うさくが、閉るあ

な気配をいふ。玉左。

今から、焚火式に行くぞ、田うさくは笑

みながら、いゝも有難う探して

お禮は、歸してからに、なさい

田うさくは後、お礼をいふ、満足にや

不例！と、お礼は心の通から、お礼にやり

電車道に行く田うさくの故、お礼に福を返した。

二三日、田うさくが、お礼を掛けた。玉左。

夕乞を、一席と気配を、お礼が、今晩、来ると

玉左、お礼は、なさい。

車道に、無理を強いて、お礼を、なさい。

何で、お礼は、お礼を、なさい。

お礼は、お礼を、なさい。

何で、お礼は、お礼を、なさい。

お礼は、お礼を、なさい。

お礼は、お礼を、なさい。

お礼は、お礼を、なさい。

軍曹の幸福集

五三／五十四

軍曹の幸福集
五三／五十四

草書，章風

蕭策城

[illegible]

第二十二

[illegible]

12、
 又、
 70、
 9、
 7、
 11、
 1、
 2、
 3、
 4、
 5、
 6、
 7、
 8、
 9、
 10、
 11、
 12、
 13、
 14、
 15、
 16、
 17、
 18、
 19、
 20、
 21、
 22、
 23、
 24、
 25、
 26、
 27、
 28、
 29、
 30、
 31、
 32、
 33、
 34、
 35、
 36、
 37、
 38、
 39、
 40、
 41、
 42、
 43、
 44、
 45、
 46、
 47、
 48、
 49、
 50、
 51、
 52、
 53、
 54、
 55、
 56、
 57、
 58、
 59、
 60、
 61、
 62、
 63、
 64、
 65、
 66、
 67、
 68、
 69、
 70、
 71、
 72、
 73、
 74、
 75、
 76、
 77、
 78、
 79、
 80、
 81、
 82、
 83、
 84、
 85、
 86、
 87、
 88、
 89、
 90、
 91、
 92、
 93、
 94、
 95、
 96、
 97、
 98、
 99、
 100、
 101、
 102、
 103、
 104、
 105、
 106、
 107、
 108、
 109、
 110、
 111、
 112、
 113、
 114、
 115、
 116、
 117、
 118、
 119、
 120、
 121、
 122、
 123、
 124、
 125、
 126、
 127、
 128、
 129、
 130、
 131、
 132、
 133、
 134、
 135、
 136、
 137、
 138、
 139、
 140、
 141、
 142、
 143、
 144、
 145、
 146、
 147、
 148、
 149、
 150、
 151、
 152、
 153、
 154、
 155、
 156、
 157、
 158、
 159、
 160、
 161、
 162、
 163、
 164、
 165、
 166、
 167、
 168、
 169、
 170、
 171、
 172、
 173、
 174、
 175、
 176、
 177、
 178、
 179、
 180、
 181、
 182、
 183、
 184、
 185、
 186、
 187、
 188、
 189、
 190、
 191、
 192、
 193、
 194、
 195、
 196、
 197、
 198、
 199、
 200、
 201、
 202、
 203、
 204、
 205、
 206、
 207、
 208、
 209、
 210、
 211、
 212、
 213、
 214、
 215、
 216、
 217、
 218、
 219、
 220、
 221、
 222、
 223、
 224、
 225、
 226、
 227、
 228、
 229、
 230、
 231、
 232、
 233、
 234、
 235、
 236、
 237、
 238、
 239、
 240、
 241、
 242、
 243、
 244、
 245、
 246、
 247、
 248、
 249、
 250、
 251、
 252、
 253、
 254、
 255、
 256、
 257、
 258、
 259、
 260、
 261、
 262、
 263、
 264、
 265、
 266、
 267、
 268、
 269、
 270、
 271、
 272、
 273、
 274、
 275、
 276、
 277、
 278、
 279、
 280、
 281、
 282、
 283、
 284、
 285、
 286、
 287、
 288、
 289、
 290、
 291、
 292、
 293、
 294、
 295、
 296、
 297、
 298、
 299、
 300、
 301、
 302、
 303、
 304、
 305、
 306、
 307、
 308、
 309、
 310、
 311、
 312、
 313、
 314、
 315、
 316、
 317、
 318、
 319、
 320、
 321、
 322、
 323、
 324、
 325、
 326、
 327、
 328、
 329、
 330、
 331、
 332、
 333、
 334、
 335、
 336、
 337、
 338、
 339、
 340、
 341、
 342、
 343、
 344、
 345、
 346、
 347、
 348、
 349、
 350、
 351、
 352、
 353、
 354、
 355、
 356、
 357、
 358、
 359、
 360、
 361、
 362、
 363、
 364、
 365、
 366、
 367、
 368、
 369、
 370、
 371、
 372、
 373、
 374、
 375、
 376、
 377、
 378、
 379、
 380、
 381、
 382、
 383、
 384、
 385、
 386、
 387、
 388、
 389、
 390、
 391、
 392、
 393、
 394、
 395、
 396、
 397、
 398、
 399、
 400、
 401、
 402、
 403、
 404、
 405、
 406、
 407、
 408、
 409、
 410、
 411、
 412、
 413、
 414、
 415、

七
子
女
二
子
子
子

23
1
2
、
2
2
1
2
2
4
1
2
3
7
7
9

ついで、朝寝を廢し、
あつた、お茶を
飲む、

This image shows a page from a handwriting practice book. On the left side, there is a vertical column of cursive letters, including 'y', 'z', 'a', 'h', 'j', 'k', 'l', 'm', 'n', 'o', 'p', 'q', 'r', 's', 't', 'u', 'v', 'w', 'x', and 'c'. The right side of the page is a grid of red dashed lines, designed for practicing the formation of these letters. The letters are written in a fluid, cursive style, and the grid lines are evenly spaced to guide the student's writing.

よく、
事、
前、
後、
言、
た、
し、
日、
下

シ
ワ
や
互
の
主
館
の
事
言
第
12
頁
は
誤
誤
し

た

解
18,
2
1
C
E
力7
27
解
!
一
誠
空
七
相
望

恒中、定廟主祀書中、恒亭、象、雨、心、

主権の感念の爲に
喜ぶ事あるに
在る

3

た

後
は

10 × 20

いふ岸に詠あはる

あふは、ポリニス、ポリニス、高松を觀た、
す、彼は、曲々南の非の如轉す、
造り、す、
に、授け、た。

五
二
一
三
丁

あ
ニ
の
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

山書方事
多然一上

飯は、
焼酎の
変化を
追う
毛髪に

二五之
舞歌す
候合は
無か
たの
た

と
昨日、
五、六時を
あふすの
節に
つづいた。

三本
二、三
一

之、水、天、一、
一、好、だ、
高、
世、

吸ふは味も中々佳し。後には三日間、四五

の
た、
あぢや
あぢは
殿下
あぢや
目物に
上つた

37

「さう、事留た」

彼は大仲にさう語り、海へ海を渡り

殿下は主には、海を渡り、海を渡り、海を渡り

海を渡り、海を渡り、海を渡り、海を渡り

「事留た」

お前、主人を捕らう、さうと訴うた

「さう」

彼は、海を渡り、海を渡り、海を渡り、海を渡り

にもたわった。さう、海を渡り、海を渡り、海を渡り

主人は、海を渡り、海を渡り、海を渡り、海を渡り

彼は、海を渡り、海を渡り、海を渡り、海を渡り

「さう、さう」

「さう、さう」

「さう、さう」

「さう、さう」

「さう、さう」

「さう、さう」

「さう、さう」

「さう、さう」

「さう、さう」

彼は 思 堪 ず ぬ 事 を 直 小 子。 軍 曹 の 新 規
調 子 七 合 々 だ。

此 自 由 車 夫、 船 を 出 荷 荷 込 後、 行 した り 停
止 せ ぬ だ り と 思 へ ば、 事 だ っ

然 し、 此 出 荷、 本 船、 船 中 船 夫 を 追 っ 押

し、 止 め、

「 停 止 せ ぬ だ り と 思 へ ば、 事 だ っ」と 言 っ た。

「 彼 等、 此 出 荷、 左 手 を 引 け、 伸 び、

「 ス ー、 フ ー、 ト、 船 中 船 夫 を 追 っ 押、

ま っ、 と言 っ て、 船 中 船 夫 を 追 っ 押、

此 重 荷、 大 事 だ、 引 け、 引 け、

有 難 々、 有 難 々、 引 け、 引 け、

「 ス ー、 フ ー、 ト、 船 中 船 夫 を 追 っ 押、

引 け、 引 け、 船 中 船 夫 を 追 っ 押、

自 分、 船 中 船 夫 を 追 っ 押、

今 日、 莫 明 だ、 引 け、 引 け、

女 は、 女 だ、

船 中 船 夫、 船 中 船 夫 を 追 っ 押、

引 け、 引 け、 大 事 だ、 引 け、 引 け、

こ、市婦人、軽蔑するやうな眼付をした。
彼は、凶悪の第一を評した。
「さう。」生活は、恩恵的な存在を演じていた。
「さう。」
信の口には、三三の日本人を捕まへては、嬉しく、
野下は、奉化した語を、するに、軽うたふたふ。
「さう。」
彼は、さう答へた、自身、言葉に、魅せられ、
うしろ、漢文と、辨古箱を、握り、言所、
より、前には、さうな、
さうな、

若士は老山子

短編

又三
百十回

た。

壁に沿つて、表の岸のする方には（介）つて

修つた。

ふ突ひ、折を扱ふ雪を敷つた。確、

女と池に、おれり令す。言ふ、毫のふあふ

起つて、滑く、氣を失ふ。女の選言と皆

に、おれりはく、女の声か、涙た。飛、世は、走の

境の壁に、沿つて、歩き出た。壁、角の、こゝ

で、先きに歩つて、来る前打か、おれり跳あつた

うに、いゝ後さあつた。

夕キジ

何

頭燈を照れ、黄色のクジ、が、エニ、おん

、おん、かすかな、城壁をたて、おん、おん

アイトに、映、おん、おん、おん、おん、おん

つゝ、おん、おん、おん、おん、おん

と、室の中、女の、おん、おん、おん、おん、おん

おん、おん、おん、おん、おん

今、やうた、おん、おん、おん、おん、おん

語

「う、ヤ、う、十五番」

「さ、お前、野々」 池上、うとく用儀！

大時の語、お前は酔つてゐるやうな、

女が、大声で泣き出た。 然、悲憤同。成

統を引、隠、う、く、橋、お別れ、言、言、

後、し、こ、い、い、境、お言、言、花、散、在、

嘆、う、言、お、之、終、た。

然、女、主、言、お、鋪、通、目、残、た、物、を、地

り、破、け、た、。 碎、け、残、り、の、ま、ふ、破、片、が、、 残、つ、

来、し、私、共、祝、儀、の、所、く、い、上、ま、う、た。 キ、エ、

こ、の、頭、う、あ、つ、た、。 三、本、が、う、、 松、の、力、一、和、

ト、か、お、が、出、た、。 カ、ク、タ、ス、鉢、う、い、も、の、が、

お、した。

二十分も経たず、池上、お、圓、轉、手、を、家、の、中、に

運、れ、い、く、た、。 う、い、泣、泣、い、や、く、る、女、を、運、轉、

手、は、引、き、提、む、し、車、の、聲、に、押、し、い、く、た、。

池上、お、お、め、う、わ、い、。 言、言、の、櫻、の、紅、い、く、た、。

う、い、頭、を、お、お、自、動、車、が、動、き、出、た、。

こ、の、一、幕、物、に、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、う、い、弱、さ、合、て、。 苦、笑、し、た、。

雲朝、新共は、朝食をーに、池上。臺所

マじをつくり、スーを沸かし、五た。

新共木、養毫を備りて、徳身者、池上代々、

コフ、ち傷つて、云々、釣糸たう、古、ひ、月三十

五月支那つて、自由、池上代々、毫に出入する

鍵をもつて、五た。

池上印が、臺所に、毫を走、り、一時に、和

芝、つ、か、うに、もう二、二、か、と、腹板、一、古、ひ、い

然、つて、五た。

池上代々、シニ、ク、前、ひ、う、い、ス、キ、一、の、大

カ、フ、が、を、千、ユ、一、と、愛、り、飯、人、ひ、水、七、三、三、

様、か、フ、飯、し、作、り、和、共、に、口、を、毫、め、て、計

持、け、た。

昨夜、は、共、ひ、を、二、一、あ、

莫、か、つ、て、い、ん、な、莫、ひ、を、と、前、方、を、証、あ

た。

池上、何、也、ち、つ、し、も、計、う、な、い、毫、を、計、う、て

五た。

池上、何、也、ち、つ、し、も、計、う、な、い、毫、を、計、う、て

五た。

五た。

[illegible]

時、新、向、令、コ、ヒ、を、領、人、た。

十、
 五、
 弗、
 司、
 控、
 扣、
 尤、
 力、
 子、
 无、
 中、
 乙、
 也、
 一、
 月、
 前、
 打、
 加、
 頭、
 七、
 個、
 中、
 傳、
 漫、
 一、
 快

ク、運轉上は運轉を行はぬ。女、泣く。

女も、一度来たところ、あゝ、仲々、物解りの
いゝ好女だよ。

言葉便ひのつ母女。や、話か、余り聴く、

過ぎた、ひ、私共は苦笑した。テニテ信用中、

来たり自然本に耳を貸してゐる、おや、とも考

へて来た。

池田氏は、聴て、大儀相成は了、柳の如き

、事所か、其の意に中へ行つた。

あふひ、字事に出掛り、積り、(。)

、前村今、順を認めた。

私は、池田氏、下像と、毎日定例に働

つた。

池田氏は、4席近、此事を替へて、

回来く、一、金く、裕方、巨大な仕事、べあ、

た、曰ふ、三人、里田く、一人、月をみ、

律つて、久百、地位、完全、持、り、

大、也、上、月、水、入、り、た。

私は、あゝ、木、た、た、け、り、仕事、を、信、つ、

る、それ、を、時、故、一、通、に、三、回、お、つ、

が、心は、夜も書も、
或る朝、私は、
読者の、
右。

昨夜、
このも、
通し、
金も、
女。

何に、
五十に、
上は、
知に、
うあ、
仲と、
山と、
余が、
と勤、

心は、
夜も書も、
或る朝、
読者の、
右。
昨夜、
このも、
通し、
金も、
女。
何に、
五十に、
上は、
知に、
うあ、
仲と、
山と、
余が、
と勤、
彼が、
草上、
中た。

一二三四五

雲日、池に於て下町に之を環る大庭日

ア
ハ
フ
エ
イ
ウ
エ
オ
カ
キ
ク
ケ
コ
サ
シ
ス
セ
ソ
タ
チ
ツ
テ
ト

う 初
才
士
耽
共
乍
フ
床
ル
腰
七
堪
之
乙
和
下

卷之七 解 七 五 七 〇

る
る
る
お

や
又
得
し
た
し
し

遠くへ来た男は、
藤原元

早、下、や、右、く、う、つ、も、乙、人、た、に、早、ら、海

むろか

急げ
た
さ
一
そ
り
と
、
さ
り
え
、
あ
り
あ
知
り
え
、

荷
有
付
、
刺
、
知
不
也
に
に
傷
く
筋
に
、
言
え
池

上
12
御
7
右
2
と
の
あ
、
3
2
今
は
習
査
1
2

⑤
丁
七
御
マ
ニ
み
る
教
ハ
た
い
。

堯
卵
分
分
子
カ
少
20
を
掘
つ
て
集
め
て
心
上
の

意
心
遠
入
己
行
フ
古
。

[illegible]

去昔より王た。龍灯生は、一、万、昔より。

崎坂・
部
書
レ
来
レ
日
・
乙
の
急
教
一
は
差
味
・

と猫味、一、軍統、輝は、ア、ス、お、う、り、ろ
の、中、に、隠、し、ある、鍵、を、膀、手、に、高、い、で、業、泉
の、う、さ、に、込、め、た、の、お、う、た、の、油、上、は、さ、う、一、た、紙、ク
何、れ、を、煮、め、し、た、か、の、古、の、た、か、あ、る、時、池
上、は、足、踏、り、も、付、け、た、後、笑、い、言、う、た。
荷、荷、領、え、は、い、い、た、か、跡、で、氷、を、混、じ、る
友、人、小、息、う、た、薄、く、た、う、た、銀、の、氷、を、混、じ、る
や、い、そ、り、や、し、あ、つ、た、競、子、の、あ、や、す、る
と、荷、荷、は、テ、レ、交、渉、を、受、け、る、ま、じ、う、た。
世、間、お、り、ろ

瓦、壁、を、さ、け、し、池、上、の、意、味、荷、荷、は、土、車、を
た、お、り、前、面、に、寫、眞、を、信、め、た。
近、頃、お、り、ろ、の、金、瓶、は、い、い、う、た。
如、意、う、た、か、棚、子、金、は、あ、ま、う、た、か、女、置、を
踏、り、子、に、奉、納、す、る、人、さ、う、た。
つ、り、ハ、ア、一、

人、の、下、傷、を、い、い、た、カ、ヤ、ニ、タ、は、無、い、か、あ、る
無、い、か、銀、人、こ、の、箱、扇、に、も、お、り、ろ、う、た。
お、り、ろ、う、た、あ、る、か、お、り、ろ、う、た。
お、り、ろ、う、た、あ、る、か、お、り、ろ、う、た。

私は、運命七篇にたつ

五年、十剎、傷りて、文無、終身生活

やりきぬなり、かやかりかえ

そのと、~~真~~耳持たよ、白木の外務省に掛合

つちや、~~た~~た、~~ま~~持身は、一瓦焼かす一

あたけた西を、~~焼~~焼とて、水を、~~焼~~焼たけ

注、~~ま~~くた。

あ、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

知は、彼の、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

知は、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

伸い、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

つ、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

看、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

う、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

う、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

う、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

う、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

う、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま、~~ま~~ま

左降ろの おまじり 之を 誦諭して、 解り、 早
畜を 能く 有り 傳へた。

「鼻血が一日も流し續つて、 未だ止まり方ない、
と言つて、 三日も 寝て 傳へた、 年が、

と前月、 無事に 迎へて、 醫者を 呼んだ。

「診察して、 注射をして、 醫者も 呼んで、

右、 耳

「醫者は 海部と云つて、 死に 前に 呼んで、 之が

受へて、 2日 加へ、 醫者は、 ツカ、 ヲ、

を 醫して、 治上り、 枕下 に 言つて、 之を 願ふ

右、 鼻を 生かす、 右、 やうな もの、 左、 腕

骨を 折る、 之を 治す、 之を、 醫者の 心で

（之を 治す、 之を）

「へ、 之う、 之う、 之う、 之う、 之う、 之う、

（一、 同、 同、 同、 同、 同、 同、 同、 同、 同、 同、

醫者は、 嚴肅に 能く 診察した。

「信等が、 之を、 寧ろ 付けた、 やり、 ます、

之を、 半分に 切つて、 之を、 之を、 之を、 之を、

之を、 之を、 之を、 之を、 之を、 之を、

醫書
 三本
 二冊
 受
 付
 元

五
日
本
の
つ
い
て
呼
び
と
か
呼
ば
れ
る

二
三
年未増す
あるが、
急激に
下り寄
る

人
 言
 身
 音
 12
 予
 12
 夢
 夢
 12
 眠
 女
 牙

[illegible]

玄
視
主
乍
邪
𠂔

利
ろ
た
照
随
神
經
二
毒
す
の
り

白分 27
判 3
た 3
}。
毎

ハ
P
—
油
—
カ
・
僅
カ
に
吟
フ
左
口
—
曰
本
、
裏
は

強強人色くお手紙に

七
ア、
矢屋
~~火~~
重
に、
培
り豊は
借金か父

又
有
右
乙
善
老
院
に
入
日
久
樹
中
醫
書
の
言

光

仰臥 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

習
ぶ
ー
こ
、
池
上
の
環
頸
を
平
下
に
威
を
や
つ
た

學者乃
集芳₁₂
集賢₁₂
也
曰昇め
言へた

五十五
後を教へて
老い若く

道樂は一方の
と
た
男
師
並
い
老
人
の
言
ひ

話の老は
さつと、
改定版
147
148
人一倍傷
7

て、
女 羅 置
博士 やり
酒 身 前
友 収
は かり

・やつとて食へぬ、
 日本から要も呼んだ、我
 らはた、或巧の接合一方に
 おるものか、
 えー。新井は黙してんで、
 眼を細めて、
 かまいたういふかにあり付
 けた。
 我々者界に相張ると、
 此方同胞、
 前、
 描題を、
 糸は凝りて眺めた。
 池上、
 描題は、
 前の方、
 題かけ、
 然るやうに、
 事なり想、
 今、
 うなづいた。
 大分。

年
々
は
事
尤
苦
乃
始
一
和
日
吃
一
た

若
遠

新打外
張紙
(以) | 一
言，在
(三) | 二、
一

1
3
2
15
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1

小
流
一
之
切

和
付
前
おに
参
一
た
う
て
い
ろ
う
七
相
理
う
て

尋
美
の
輪
れ

如
 皮衣
 羽仁
 君
 子
 人
 人
 泥
 子
 子
 子

箱形の毒桶、自動車を、1317017 後

缺
走
古
乙
エ
一
て
エ
キ
フ
フ
ハ
ハ
イ
フ
フ
フ
真
腰
分
、

和光の臭い賣を
^て買ひ入れし

五月の微風

人三

五月十日

感懐かけか、一時目北しかかゝる。勞傷から
焦燥多分を救ふて来た。

隣家の庭園に生く白人の園丁が、私を叱咤
と脅かし、草刈つてゐる。油断を睡め、は、いつ

も只力了のた。

口ツツてくくつ、急彩を上のうから川り

降りた、屏風だううに

云、試してみるか。冬。

今日も彼は、今日、被ふ仕事も眠り

、道を横に転く。転く、望遠をみこ、目

る。何れも、大行した。

舗道近く、川り降りた時、通り掛り、婦人

か、まねて、私を呼ぶ止めた。

お前、心い、か、五方帳前、この路

を向、おれを、のを、観、ほ、たか、たか、

、

強、おれ、斗、大、

婦人、は、弱、弱、り、を、昇、り、下、り、光、線、保、護、の、化

強、を、茶、溜、色、を、頼、を、私、の、沙、水、を、整、え、の、肩

、破、れ、生、つ、て、沈、い、腰、を、手、た、た、き、す、。

93

人、耳現、
知イヤ
海、
漢方

婦人は、
 轡、
 糸の表情を
 變に
 顔
 一、
 五、
 九

急 12
左 手 ③
鞭 17
鐵 12
鞭 12
手 12
手 12

12 差
ア
五
二
一
ア
一
の
五
五
五
二
三
廣
中

け
た。

了
〜

急
急
了
急
急
急
急

言
た。

直仁受の徳路に倣ふ。

一、

今
つ
山
大
珍

[illegible]

今
一
十二
十
二
三
四
五
六
七
八
九

分
一
二
三
四
五
六
七
八
九

言
 長
 毛
 性
 一
 所
 症
 面
 益
 一
 乙
 十

[illegible]

方、
 五、
 十、
 二、
 九、
 要、
 録、
 二、
 國、
 夕、
 八、
 ヤ、
 七、
 片、

[illegible]

色
上
か
)
下
平
子
左
口
、

、
今
二
夕
、
た

重
鉄
土

拾 下 己 十 一 七 十

白禪創作用紙(C形)

白事くは、
莫如
た
右
し

た

時

量方斗七
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ
ハ

婦人
11
韋本七
顛く
、
策七
た
乙
笑

乍
 夕
 一
 筆
 主
 新
 張
 的
 12
 新
 張
 的
 上
 丁
 左
 〇
 主
 〇
 〇

勝肉、由係
 在搖す心り
 作^強と持^強持^強
 意^強持^強に
 歩^強立^強走^強

$$t_2$$

和
味
范
然
と
一
左
了
二
一
口
二
子
七
横
向

土
室
リ
ニ
、
草
の
上
に
、
一
つ
カ
リ
腰
を
郭
に
お

予人^ニ
 婦人^ニ
 持^ル出^ス
 國^實
 人^ニ
 墨^墨
 人^人
 の
 たい

付
た
~~み~~
き
た
男
人
、
私
の
前
に
寄
り
ま
さ
る

俺
は
.

つ
の
も
い
な
を
持
つ
こ
う
か
す
と
い
ふ

男は、
上之
9
毫
1
カ
3
、
頭
鉗
下
塔
塔
松
を
中
1

乙、
第 12
第 12
第 9
第 12
第 12
第 12

不承は失業者研究

無意處
以和
治色
古

第
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

俺の友達に悪ふとこしーえ、俺に言つて云々
 と野村が、しびー
 俺は、何か見えた、二個あるおま、汗の
 流れてるよ、穿た振つて、
 何くた、十五仙在で、カッパううちんだらう
 うう、うう、
 仰山に、怪さ七見えて、
 す。暇を潰すた。
 い、不ふ、五十仙、それとも、私は彼の東榮
 善ふ包相取、血の気の
 一帯とひも、言ふ、失たた、高に笑う掛けた
 う言は、五十帯、この値下あまるのか五振
 で賣る、俺は、今晩の飯代が、今だ。
 あう、和は、五振も、眠め直した。
 要らぬ。よ。
 ういふのも、衣類、感にたつた、才、て
 、男が泥道へたにても、五帯する年かいた
 り、指環、金にあうた、金の謝還さ刻し
 方わした。

今
割
キ
ヤ
ス
ル
ハ
モ
ト
古
豆
子
時
、
~~五~~
附
二
三
廿
、
三
九
12

大
一
左
味
も
入
り
方
の
右
の
左
の
上
の
下
の
左
の
右
の

夕
 12
 常
 作
 20
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

十、
や
二、
弗
完
調子
を
事

2
彼方
3. 平
己
事
1/4

9
7
. .
金
十
仙
つ
;
九
)
. .
物
分
キ
又
フ
け
左
6

幫く
 係は
 歌
 白分
 掌中
 和
 2

新
知
の
壁
に
一
壺
を
な
い
二
眠
つ
搜
機
に
た
り

結、
柳、
木、
花、
後、
女、
12、
私、
13、
鏑、
跡、
し、
大、
急、
懐、

3

七 拾 九 九

[illegible]

食
一
た
い
て
雞
嶋
左
綾
子
12
1
2
14
性
格
成
育
て
る
。

奇想本
心口は

物
不
延
厚
以
大

今
日
健
也
乳
母

[illegible]

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

和
の
仁
事
を
了
す
方
、
あ
い
ニ
マ
ー
を

木口
おー
一
に
人
に
後
に
素
情
り

ハ
カ
一
人
力
停
来
右

変
休
街
路
に
付
ろ
、
喋
る
ト
ハ
、

4
5
18
2
3
4
5

支は
 一
 手入
 行

[illegible]

朱の
経
緯
12
、
一
笑
知
性
事
、
右
付
博
士
、
朱
は

い
う
や
F₂₀
y
x
め
t₂
o

ヤ、ウ、キの黒豆の生青茹は、未だ遠くは行かず。

知
以
下
口
自
初
事
以
業
不
之
也

和は、
白針車の上の方
首を横に突かす
後

了
也
め
か

加

う
そ

、

な
に

~~被~~
益
島
越
の
目

志
故
竹
志
婦
人
の
志
は
剛
勇
之
者
也
と

7
2
—
云
8
15
鼻
咽
喉
心
吃
土
吃
4
上
メ
上
0

五月五日
五月五日

朱孝廉

又、増殖の
経緯を、才
士の
勤勞に
付

吃々々々
和風朱事失等里田人の跡を白鳥

車
土
ス
ノ
ア
人
ル
ト
。

江
江
常
本
上

車
土
ス
ノ
ア
人
ル
ト
。

一軒、此車口亡失、
下、新、の、
取、り、
来、
来、

白鳥車の如く
天を飛ぶ如く
五月の微風
来たるに

習上におゐるやうな。

1022 D. Fedora St.
city

夢

篇 恋の是曲

井田盛雄

その頃、彼は、裕民地特有の
秀才青年にあり、儼然と自意識を、
漸く漸く、都築市場の賣子に染みて
、五針、季節を追つて出回する
日本人百姓の、貧と血と勞働の
結晶であり、赫々とトマトの膏を
顔下塗りたり、馬の喰えやうな
者々セロリを運び續け、偉人
人根性ひ、遙か朝の勞働に、
浮かぬ生活をやき指つてゐた
金は無し、女は居ず、耆老を
磨滅して、筋力勞働に鈍まると
肉體を轉換させると都合好つ
た事には、さうさう、恐ろしく
本柱つた資本主義社會の、併々
日本人社會には受入れ来りもの
ではなかつた。

所詮、奉勅する人目下下働き
働き一匹ひ彼は女工。

ひも、男二十人、未だ、心の
芯まで腐つてはゐなう人だ。

と獨り彼は、力4かへつて斗た。

彼は瘦も我擧も押一通り働

き昇めた有金ひ、ホーロを一毫

新調した。

おおおー、白動車を買つた、

こゝ

近隣住つて、親しつて夫人を

訪ねた時、夫人は艶のつて牛乳

に微笑を添はした。

「それ、才二世娘が釣れなく

ちや、一啗だ。」

さう。大に工サぢやなう。

けつ。

と軽く意気はした如、流石に

如圖筆を指さ木で彼は、俄か

牛乳に急ぐ口を減らひ、

テレニアツた。

M夫人は、彼を意様圓に招り

て、

「橋樑を、しまえうま。」

「ふふ」

彼は、低声で曖昧な生返事を

した。

「今迄、古く延命服が、来た、

還さうなうた。」

「今、今にさく、何處にゐる人

ひさ。

「何んか、何無用よ。」

彼は寛く煙草一罐に、二階の

スリッパを登る夫人の腰付を

放免した。凶人のやうな顔さう

視線を投げた。

「何もなく、夫人は、洗濯後の

配着（夫より）しく、しすを三四

枚下ゆへ降りて来た。

房には、田舎の両親に頼ま
れ、始めは都會で法政大學生と
して、以夫妻の元に領けられ
た。それか、一針後の半針前
に、夫人と感懐の溝が出来て、
宿を拒はる木たのた。
房には、夫妻共に宿中、
彼は、極く朗々友情を保つて
彼女に面接した。併し、彼は若
年、彼女は乙女、この利然すさ
る自然の意志、坦々たる街の
大道をさう、深々溪谷に導く惡
路を創るものか。
決て恋心、面かしの情態か、
幽人の胸に柔かく荒磯し始め
る、彼女の良は、以夫人の元か
ら完全な消し失せたりか。
あう人。
諦めかある諦めか、彼の心構
に燃えたと同時に、

あゝかりし、由良の助。
と言つた悔悟が、失手を打た
た者う悲^哀れ似て、標的を刺^さか
木に彼の情^け整う迄^{まで}、^地鉄^{てつ}に乙女
ねゝみち。

乙女が、今日、川主人の橋渡
し、彼女ともの、彼女に逢^あつた
口実と確^た美^み性^{せい}を掴^{つか}んで、来^きた
うう日の和やかた感^{かん}性^{せい}、ちよ
いと陶^{たう}醉^{すい}
~~とすに~~う木やうか。

あゝ乙女がうたきは、畫方師
自身の腕^{うで}技^ぎ才^{さい}よ。

いゝスを抱^かえて、玄関を下^{くだ}り
る細^この背^せ後^ごから、川夫人は力の
以^も龍^{りゆう}つたアルト~~を~~費^ひりか^か
~~た~~

やうやく、抱^かし当^{あた}てた彼女
家の玄関前に車を停^{とど}めると、川
夫人の電話で識^しつゝるた彼女は
不^ふく^く^くと来^きて、おーど、横^{よこ}に
歩^あき寄^よつた。

久
一
子
リ
お
と
、

と
換
換
一
二
彼
何
、
瞳
を
太
く
見
開

④ 彼の全身を自動車を等方

12
1/2/11
x
2
2
7
2
2
3
x
12
.
1.7
2
1

不
を
牛
癢
丸
〇

そを記の中に
抱こす

左 彼 女 は 、 彼 の 撞 亡 へ へ 、

何
1
2
、
4
3
7
L
1/2
9
、
お
お

か
し
こ

昔
マ
マ
マ
マ

彼女に、
臆、
車、
裡、
彼と

美人の腰を却
し乍ら
彼方

7
14
也
强
2
訓
書
3
7
、

二
三

と 報 以 左 類 左 彼 12 向 4 七 0 3

二

忙が
う
の
、
ま
う
の

と
よ
い
、
話
尾
を
、
廿
時
引
ろ

つ
張
ゝ
た
。

彼モト女メ、人物試驗ニ、

てゐるやうな窮乏な感情に墮ち
て、會話の合間合間の沈黙を所
在なく、微笑を弄した。

「でも、女から、七つ、も、

後を叶^たたかつた。あ、

あ、田さ、かう、先^に新^{しん}敷^{しき}したの

たまには、歌あ、やうにうゝ、

川^が夫^は、あ、を。

あ、やう。矢、張りあ、田さ、

あ、

あ、あ、房には微かな笑を湛^た

う、た。

別々^{べつべつ}の時、こゝだ、う、た、う、

自分^{おのれ}の娘^{むすめ}が、一瞬も反^{へん}りにな、う、

、一瞬も挨拶しな、う、なく、

人^{ひと}聴^きさか、い、け、た、い、お。

た、う、う、

あ、あ、あ、鳥、さ、う、い、し、な

い、

他^{ほか}女^をが、黙^{もく}、う、う、他^{ほか}う、表^あ考^くに、眠^ね

瞬を凝らひるたのび、彼の白動
車は、彼女を乗せゝ動き出した
夕飯を喰ひたう、一終に何處
かで
一時の親類り出つて、彼女の
家近くで訊あつた。
「でもー！」 彼女は遠慮した
「でも、オーストラリア
はたくし、行けなうと思ひま
す」

正確な日本語で、細く咬つた
彼は、弱に声を出さうた。
暫くして、彼女は、二階の自
宅を、車の窓から覗き上げな
う、

「はたくし、日本語の教
えます、のよ」

「友よ、彼女が左頬、少し二
キに眼を向け方加う、

日本語——出来ると、

でも、皆なう人達か、話して

みえさつ。と箱(佛)の人です。

かうさう、僕も聴きにいくさ

求う、下手ま。きつと。

彼女に、娘々(おんなご)おどい、さ

う囁いた。か、次の一瞬、彼女

は無風の友を待て忘の外に

黄生、幽暗に瞳を轉じし

彼女が通告する日の針台、彼

は花屋に出掛けた。

胸飾にする為、二個の花束

を注文した。

白(おしろい)加(か)料(りょう)ニヤと、

黄(おう)の菊(きく)をも。

贈(く)る時、針(はり)に彼は、

——房(ふ)にさんか、始めの日は

語(こと)通(と)せの成(なり)を祈(いの)ります。

——、その之(これ)を君(きみ)に送(おく)る

た。

—— 船は、加賀ニヤの花大変
好きです。晝うか、この白く花
を眺め、掃く。庭場の土の心を
かき望みます。
ひも、あなたか、お嬢さん。
たう、香りも艶もなう。花を眺
に掃く。つしやう。
晝う、~~の~~庭に、菊の花を觀ま
たう、私は晝方の庭を歩いて

歸ります——。

その夜、彼は、庭場の後方に
集結する感情を抑へて、心
を競はしめた。
誰れでもが昇期する、あの超
自然的に運命の歸趨を約束する
ハイコロの目を待望する者、
心臓を刺すやうな友人の感情曲
に奔弄さる。——。

その日に、友人の故郷に降

壇して、司會者か、彼女の名を細

介した。
「一針半の恋。この恋、サイマ

、が、貝車、僕の運命を蹴破る

友よ、僕は日本に結婚しやう。

いと彼は泣いた。

演壇に進む彼女の後姿に、彼

の瞳は燦きつた。雨後の上

に牡丹台と大木鬱々汗ばく汗ばく

汗ばく

演壇の卓子の前で彼女は、く

るりと身転換して、聴衆に向

つた。

「つた」

叫喚が、脳髓を引き裂いて走

った。

彼女は、叫び、頭部を華々に

聴衆に挨拶した。

彼女が、端座の上に半身を卓上

に顯し、踊るその処に、何う

何う花が飾つてあつたか、
彼は、突然、胸を衝かれ、息
つまる程さを、靴尖きり迄も慄
つ感にた。

暇に、彼女が始めに、
落つたき過ち、態度、平和な容
顔。その唇から、風情に聴く之は
友譯集曰本語か、一語、一語、湧
いて流れた。

如、彼の錯乱した聴覚は、
うつと急ぎ一つの音響になつて
鼓膜を乱打する。

彼は、両膝の掌に年を垂れ、
熟の上昇する瞳を静かに裏つた
彼が針の頃死別した生母か
白くかきやの花を胸に挿し、
、酒壇に希望を現はした。そ

この微笑を彼に投げた、手
を振る。その本も一瞬の幻想
で、何うの花辨ねなつて辨ひ敬

る。と彼は雨の、幻覺を呼び醒
ました。

法一、母、母は友い。
彼は仰つた壇上の彼女は、

茶褐色の午后の外出着の胸に
彼女は、何、花も飾つてゐた。

彼女、彼の狂乱する瞳を、
彼女の容姿にしかたつた。

彼女の視線の轉如か、彼の瞳
また瞳に凝れた、その刹那に、

彼女は幽かな頬笑を贈つた。

彼の両拳は、腹立ち粉々に自

身の大腿を力に、人なく、

た。か、その実、隣席の聴衆に

対して、なほしなかつ

た。実際、彼の志心も、意志も、

力も、くつたりと崩れ、了つて

ゐた。

そして、眞面目な表情で、

整然と、調子の日本語を繰り、

縁

あり方には、時遇に、聴きあ
 ちてちに視線が傾けられたのは
 決して、彼に特別な感情、微
 笑を漏らしはしなかつたのか
 彼が、燃やした煙、熱を競う
 て、汗ばんだ両手を胸に、時
 彼の頭脳には、静かにマヤ
 人考や、色とりを運ぶ彼
 灼熱の生か、鮮やかに輝く
 まさかとも、鮮やかに

た。
 吃

彼は、心で、

大ニ、十二

分ニ世山女が、愛する年

場本やうか

